

練馬子ども議会報告書



平成30年度（2018年度）

練馬区

ごあいさつ

練馬区教育長

河 口 浩



練馬区では、中学生が区政や区議会、選挙の仕組みについての理解を深めることを目的に、「練馬子ども議会」を実施しています。

今年度は、子ども議員の皆さんから、「観光振興」、「ごみ減量」、「ICT活用」、「中高生の児童館の利用」について、区への政策提言を発表してもらいました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって地域調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、会場を従来の議場から生涯学習センター等に移し、多くの傍聴者の前でスライドを用いた発表や、グループ間で質疑応答を行うなど、貴重な体験をしていただけたものと思います。

子ども議員の皆さんには、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策を見つける力を磨いてもらいたいと思います。これからの練馬区を未来ある皆さんたちと共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。

目 次

➡ 平成 30 年度練馬子ども議会の開催について・・・・・・・・・・	1
➡ 平成 30 年度練馬子ども議会子ども議員名簿・・・・・・・・・・	3
➡ 練馬子ども議会が開催されるまで・・・・・・・・・・	4
➡ グループ紹介	
➡ F i n d T h e L i g h t ～練馬区の光を見つけよう！～・・・・・	11
➡ 広まれ 2 R ～ R e m e m b e r B l u e ～・・・・・・・・・・	13
➡ E n j o y C o m p u t e r ！！	
E n j o y S c h o o l l i f e ・・・・・・・・・・	15
➡ 中高生 どんどん行こうよ 児童館	
～児童館の利用率ハンパない～・・・・・・・・・・	17
➡ 練馬子ども議会開会宣言・・・・・・・・・・	20
➡ 意見交換会・・・・・・・・・・	24
➡ 政策提言発表	
➡ 『練馬の観光・魅力を P R する取り組みについて』・・・・・	32
F i n d T h e L i g h t ～練馬区の光を見つけよう！～グループ	
➡ 『ごみになるものを減らす取り組みについて』・・・・・	36
広まれ 2 R ～ R e m e m b e r B l u e ～グループ	
➡ 『 I C T の利用状況とその効果について』・・・・・	40
E n j o y C o m p u t e r ！！	
E n j o y S c h o o l l i f e グループ	
➡ 『中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて』・・・・・	44
中高生 どんどん行こうよ 児童館	
～児童館の利用率ハンパない～グループ	
➡ 会議録署名・・・・・・・・・・	53
➡ 資料	
➡ 平成 30 年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票・・・・・・・・	55
➡ 子ども議員へのアンケート集計結果・・・・・・・・・・	59
➡ 練馬子ども議会実行委員会プロジェクトチーム（P T）について・・・・・	65

平成 30 年度練馬子ども議会の開催について

1 目的

(1) 区政に関する意見の聴取

子ども議員が日ごろ疑問に思っていること、希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

(2) 区政や区議会、選挙の仕組みについての学習

子ども議会を経験することにより、区政や区議会の仕組みについて学習するとともに、選挙の仕組みについて理解を深め、区政についての関心を高める機会とする。

2 開催期間

(1) 学習会 平成 30 年 7 月 7 日（土）～平成 30 年 7 月 31 日（火）【全 4 回】

(2) 政策提言発表 平成 30 年 8 月 7 日（火）

3 開催場所

区役所会議室、議場、全員協議会室、生涯学習センターホール

4 子ども議員

区立中学校および私立中学校生徒 35 名

5 実施内容

(1) 子ども議員の推薦

- ① 国・都・私・区立中学校に子ども議員の推薦を依頼する。
- ② 子ども議員に、2つの分野（教育・子ども分野、区政全般に関する分野）から希望する分野を選んでもらい、それをもとに 4 グループに分ける。
- ③ 所属するグループが決定した子ども議員は、テーマに関する事前学習を行う。

(2) 学習会

- ① 第 1 回学習会 7 月 7 日（土）午後 1 時～午後 6 時 [区役所会議室]
区政・区議会制度、選挙制度の学習、子ども議会概要説明、
研究グループづくり、研究課題の設定
- ② 第 2 回学習会 7 月 21 日（土）午前 9 時～午後 5 時 [区役所会議室ほか]
地域調査、政策提言全容図の作成
- ③ 第 3 回学習会 7 月 23 日（月）午後 1 時～午後 6 時 [区役所会議室]
政策提言発表原稿の作成
- ④ 第 4 回学習会 7 月 31 日（火）午前 9 時～午後 5 時 [議場、全員協議会室ほか]
政策提言（案）発表、意見交換会、グループワーク

(3) 政策提言発表

平成 30 年 8 月 7 日（火） 午前 10 時～午後 5 時 [生涯学習センターホール]

① 議長

子ども議員の中から選任する。

② 進め方

各グループが政策提言発表を行う。

- ・午前 10 時～正午 リハーサル
- ・午後 1 時 30 分～午後 3 時 政策提言発表・質疑応答・講評
- ・午後 3 時～午後 5 時 ふりかえり・懇談会

(4) 政策提言への取組調査

政策提言の内容を各所管に示して取組状況の調査を行う。結果は練馬子ども議会報告書および区ホームページに掲載する。

(5) 報告書

練馬子ども議会報告書を作成し、区内各小中学校等に配付する。

6 練馬子ども議会の役割分担について

(1) 練馬子ども議会実行委員会

練馬子ども議会の主要な事項について検討するため、練馬子ども議会実行委員会を設置する。こども家庭部長を委員長、庶務担当課長会構成員をメンバーとする。

(2) プロジェクトチーム

練馬子ども議会実行委員会の下部組織としてプロジェクトチーム(6名程度)を設置する。

- ① 教育・子ども分野から2名程度、区政全般に関する分野から2名程度(学習会の進行管理、助言、地域調査場所の選定、当日の随行等)
- ② 区長室広聴広報課から1名(プレスリリース・ねりまほっとライン用映像・写真撮影)
- ③ 議会事務局から1名(議場の運営補助)

(3) 事務局

教育委員会事務局こども家庭部青少年課に事務局を置く。

事務局は総合調整、実行委員会・PT説明会の進行管理、意見交換・政策提言発表の運営、報告書作成・配付等を行う。

平成30年度 練馬子ども議会子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏 名	ふりがな	性別	中学校名	学年
Find The Light ～練馬区の光を 見つけよう！～	練馬の観光・魅力を PRする取り組み について	天野 結月	あまの ゆづき	女	石神井西中学校	2
		大根原 愛心	おおねはら あこ	女	開進第四中学校	2
		菊池 康介	きくち こうすけ	男	大泉北中学校	2
		小林 篤生	こばやし あつき	男	南が丘中学校	2
		鈴木 重太	すずき しげた	男	豊玉第二中学校	2
		田中 みまり	たなか みまり	女	光が丘第一中学校	2
		鳥居 晃子	とりい あきこ	女	練馬東中学校	3
		前床 杏結実	まえとこ あゆみ	女	小中一貫教育校大泉桜学園	8
		山崎 健登	やまざき けん	男	中村中学校	2
広まれ2R ～Remember Blue～	ごみになるものを 減らす取り組み について	秋田 由麻	あきた ゆま	女	練馬中学校	2
		大山 潤	おおやま じゅん	男	石神井東中学校	2
		粕谷 景奈	かすや けいな	女	開進第三中学校	2
		久保 斐喜	くぼ ひのき	女	開進第一中学校	2
		鹿野 夏央	しかの なお	女	旭丘中学校	2
		竹内 和秀	たけうち かずひで	男	大泉第二中学校	2
		谷内 晴	たにうち はる	女	石神井中学校	2
		檀原 瑠菜	だんばら るな	女	上石神井中学校	2
Enjoy Computer!! Enjoy School life	ICTの利用状況と その効果について	足立 美帆	あだち みほ	女	光が丘第三中学校	2
		阿部 弥熊	あべ みぐま	男	石神井南中学校	2
		荒井 千尋	あらい ちひろ	女	関中学校	2
		木田 果歩	きだ かほ	女	三原台中学校	2
		呉 茂南	くれ しげお	男	光が丘第四中学校	3
		田口 智浩	たぐち とみひろ	男	早稲田大学高等学院中学部	3
		橋本 百音	はしもと もね	女	光が丘第二中学校	2
		松本 颯允	まつもと そうま	男	開進第二中学校	2
		山内 美空	やまうち みくう	女	田柄中学校	3
中高生 どんどん 行こうよ 児童館 ～児童館の利用率 ハンパない～	中高生の児童館の 利用率を上げるための取 組みについて	相澤 郁花	あいざわ ふみか	女	大泉西中学校	2
		青嶋 有威	あおしま ゆうい	男	豊溪中学校	3
		阿部 真佳	あべ まなか	女	大泉中学校	2
		宇田川 晴希	うだがわ はるき	男	豊玉中学校	2
		酒井 紗香	さかい さやか	女	谷原中学校	2
		酒井 望	さかい のぞみ	男	北町中学校	2
		二木 日海留	にき ひかる	女	貫井中学校	2
		榛原 優元	はいばら ひろもと	男	八坂中学校	1
		森 友那	もり ゆな	女	大泉学園中学校	3

練馬子ども議会が開催されるまで

子ども議員の募集

- ◇ 区立中学校（全 34 校）、区内の国・都・私立中学校（6 校）に子ども議員の推薦を依頼しました。

子ども議員の決定

- ◇ 区立中学校から 34 名、私立中学校から 1 名の推薦があり、合計 35 名の子ども議員が決定しました。
- ◇ 子ども議員は、調査、提案したいテーマごとに、1 グループ 8 ～ 9 名で構成する 4 つのグループに分けられました。
- ◇ 所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出しました。

第1回学習会

7月7日（土）

午後 1 時～午後 6 時＜区役所会議室＞
33 名の子ども議員が出席しました。

（主な実施内容）

【全体会】

区政・区議会制度について

練馬区の特徴、区政運営、今後の方向性、そして練馬区の組織や区議会の仕組みについて学習しました。

選挙制度について

選挙権や選挙の種類、若年層の投票率などを学習し、模擬投票を体験しました。

練馬子ども議会について

練馬子ども議会のあらましについて説明を受けました。

政策提言について

政策形成の方法、提言書の作成について説明を受けました。

地域調査について

地域調査のための調査場所、対象など、具体的な方法について説明を受けました。





【グループ別学習会】

- ① 自己紹介を行いました。
- ② グループ長と書記を決めました。
- ③ 事前学習シートを参考に話し合い、政策提言発表のテーマを決めました。
- ④ 第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。

第2回学習会 7月21日(土)

午前9時～午後5時

33名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【地域調査】

地域の人たちの話を聴くなど、地域の事象を実際に目で見えて課題を捉える。

- ① Find The Light
～練馬区の光を見つけよう！～ グループ

練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて学習するため、石神井観光案内所と産業・観光センターに行き、職員から区の現状を聞き、インタビューしてきました。



- ② 広まれ2R～Remember Blue～ グループ



ごみになるものを減らす取り組みについて学習するため、練馬清掃事務所と豊玉リサイクルセンター、練馬区資源循環センターに行き、職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。

- ③ Enjoy Computer!!
Enjoy School life グループ

ICTの利用状況とその効果について学習するため、ICTを活用している大泉中学校に行き、教員や学務課職員からICTの活用について説明を聞き、インタビューしてきました。



④ 中高生 どんどん行こうよ 児童館
～児童館の利用率ハンパない～ グループ



中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて学習するため、練馬図書館と中村児童館に行き、中高生向け事業の実施状況および施設の利用状況について説明を聞き、職員にインタビューしてきました。

【グループ別学習会】

地域調査のまとめ

地域調査で、実際に見て、聞いて、感じたこと、わかったことをみんなで話し合い、確認しました。



第3回学習会 7月23日(月)

午後1時～午後6時<区役所会議室>

34名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】

議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・会議録署名議員を決めました。

【グループ別学習会】



政策提言発表原稿の作成・提出、リハーサル

第2回学習会で話し合った内容をまとめ、政策提言発表で提案する原稿を作成しました。

また、練馬子ども議会開会宣言・意見交換会のリハーサルを行いました。

第4回学習会 7月31日(火)

午前9時～午後5時<本会議場・全員協議会室・区役所会議室ほか>

35名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】午前9時～午前10時

練馬子ども議会開会宣言・意見交換会の流れを確認しました。

【練馬子ども議会開会】午前10時～午前10時5分



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】午前10時15分～午前11時30分

各グループが政策提言（案）を発表し、意見を交換しました。



※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など16名の方が傍聴されました。

【グループ別学習会】午後1時～午後5時



意見交換会後に、質疑応答のまとめや、改めて考えたことなどをグループ内で話し合いました。

政策提言発表

8月7日（火）

午後1時30分～午後3時＜生涯学習センター＞
35名の子ども議員が出席しました。



生涯学習センターにおいて、区に対してグループで政策提言発表等を行いました。各グループの発表について教育長から講評を受けました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など 50 名の方が傍聴されました。

【懇談会】

練馬子ども議会閉会後は懇談会を行い、活動を通じて仲良くなった友達と、これまでの振り返り親睦を深めました。また、記念品の贈呈を行いました。

グループ紹介



Find The Light～練馬 区の光を見つけよう！～グループ

「練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて」



天野 結月（石神井西中学校）大根原 愛心（開進第四中学校）
菊池 康介（大泉北中学校）小林 篤生（南が丘中学校）鈴木 重太（豊玉第二中学校）
田中 みまり（光が丘第一中学校）鳥居 晃子（練馬東中学校）
前床 杏結実（小中一貫教育校大泉桜学園）山崎 健登（中村中学校）

P T 古山 等 （商工観光課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：練馬の観光・魅力を PR する取り組みについて

調査目的

練馬区ならではの観光スポットを見つけるため。

調査場所

石神井観光案内所、産業・観光情報コーナー

調査内容・方法

案内所の職員にインタビューする。

区の現状（すでに実施しているか）

アニメの聖地やインスタ映えする場所が多く、農や自然など魅力が多い。

案内が多言語化されていないため混乱している。

シェアサイクルの金額が高く偏りがある。

バリアフリーが少ない。

練馬区に来る人が少ない。

課題・問題点 バリアフリーを強化する必要があるが、経費がかかり、すぐに対応することは難しい。

パンフレットが多言語化されていないため、外国人観光客が少ないが、設置できる場所が少ない。

アニメのマップはお金がかかり許可が取りにくい。Free Wi-Fi が少ない。

シェアサイクルは金額が高く偏りがあり、どう活用するか。

インスタ映えする場所はあるが知られていないため、どう宣伝するか。

解決策の検討項目

- ① どうバリアフリー化するか。
- ② 多言語化したパンフレットをどう利用するか。
- ③ パンフレットやインスタ映えする場所をどう宣伝するか。
- ④ Free Wi-Fi はどうするか。
- ⑤ シェアサイクルはどう活用するか。
- ⑥ アニメはどう活かすか。

解決するための方法・手段

- ① しっかりした計画を立て、バリアフリーの意識を広める。
- ② 一人一人の対応力を高める。テクノロジー（自動翻訳機）を活用する。
- ③ 「とっておきの練馬」という写真を UP できるサイトを活用し、広める。
- ⑤ 他の区でも使えるようにする。
- ⑥ アニメの聖地に人をたくさん呼ぶ。アニメの聖地を探すツアーをやる。練馬をモデル地として提供する。コマーシャル、練馬を中心としたアニメをつくる。

自分たちができること

自分で SNS に投稿する。

積極的に助け合う。

外国人がいたら、対応できるように英語を勉強する。

学校全体で SNS を使い投稿する。

広まれ2R～Remember

Blue～グループ

「ごみになるものを減らす取り組みについて」



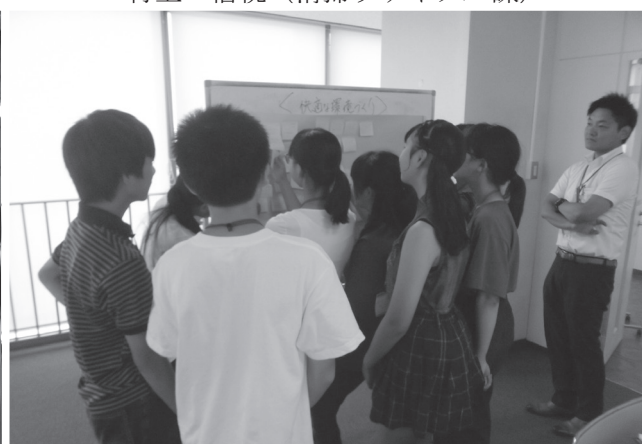
秋田 由麻（練馬中学校） 大山 潤（石神井東中学校） 粕谷 景奈（開進第三中学校）
久保 斐喜（開進第一中学校） 鹿野 夏央（旭丘中学校） 竹内 和秀（大泉第二中学校）
谷内 晴（石神井中学校） 檀原 瑠菜（上石神井中学校）

P T 富澤 崇行（清掃リサイクル課）

村上 悟視（清掃リサイクル課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はあいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：ごみになるものを減らす取組について

調査目的 現在のごみを減らすためにどのような取組を行っているのか調査する。

調査場所 練馬清掃事務所、豊玉リサイクルセンター、練馬区資源循環センター

調査内容・方法 担当している職員の方に話を伺い、インタビューをする。

区の現状（すでに実施しているか）

ごみの分別が上手くできていない。→食べられるものや使えるものがある。リサイクルセンターでは、家具や布団などを直して安く販売している。講座を開催し、2Rを広める活動を行っている。食品の普段なら捨ててしまっている所を使った料理講座を行っている。人口が増加する一方、ごみの量は減っている。

課題・問題点

可燃ごみとして出されているもののうちの20%が分別されていない。

食べられるものが、約1,700tも捨てられてしまっている。

使わなくても良い紙が多い。

解決策の検討項目

可燃ごみのうち、20%が資源にできるもの。

本来ならば捨てなくても良いものをなくす。

生ごみの中の可食物をなくす。そのために必要のない食材を買わないようにする。

年間で15,000tの紙が捨てられており、必要でない紙の使用を減らす。

解決するための方法・手段

ごみの分別を呼び掛け、できること、得することを伝える。

家庭にある食べ物を優先して使い、新たに買うことを防ぐ。フードドライブを集める。

食べない部分でできる料理を広める。

お金を捨てているという感覚を意識する。

裏紙として紙を使用。ネット化して必要な人だけ手紙をもらう。

自分たちができること

委員会から生徒たちへの呼びかけ

ポスター制作

自ら分別を心掛ける

家庭で話し合い、広める。

Enjoy Computer!!

Enjoy School life

グループ

「ICTの利用状況とその効果について」



足立 美帆（光が丘第三中学校）阿部 弥熊（石神井南中学校）荒井 千尋（関中学校）
木田 果歩（三原台中学校）呉 茂南（光が丘第四中学校）
田口 智浩（早稲田大学高等学院中学部）橋本 百音（光が丘第二中学校）
松本 颯允（開進第二中学校）山内 美空（田柄中学校）

P T 染野 航平（教育施策課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はあいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：ICT の利用状況とその効果について

調査目的

ICT の普及と利用上での理解を深めるため。

調査場所

大泉中学校

調査内容・方法

学校の先生に対してインタビュー、ICT の普及
の利用上での理解を明確にする。

区の現状（すでに実施しているか）

- ① ICT 導入は練馬区ではあまり進んでいない。
- ③ ICT の技術に個人差がある。
- ④ 5 年間で 8 千万円という莫大なお金がかかる。
- ⑤ ICT によって、図をアニメーションで表せたり、
授業の時間を短縮できる。

課題・問題点

- ① ICT の導入がある学校でも特別教室にはまだない。データの容量やコンピューターの性能によって、
トラブルが起き、授業に支障がある。タブレットの個数が少ない。
- ③ 授業に支障がでることがある。

解決策の検討項目

- ① 先生と生徒の ICT の理解を深める。
- ② タブレットを適切に管理する。
- ③ 生徒がもっと ICT に興味を持つように生活
する。
- ④ ICT について教わる。
- ⑤ 限られた ICT で授業する。

解決するための方法・手段

- ① 放課後に研修会・学習会を開く。
- ② 時間割の調整を行い、タブレットが不足しな
いようにする。
- ③ ポスターを作る。
- ④ ICT 専門の人を呼ぶ。生徒同士で教え合う。
→①につながる。
- ⑤ ノート、ICT の平行使用

自分たちができること

生徒同士で教え合う。生徒も先生に協力して ICT の授業をする。
ポスターを作る。

中高生 どんどん行こうよ 児童館 ～児童館の利用率ハンパない～グループ

「中高生の児童館の利用率を上げるための

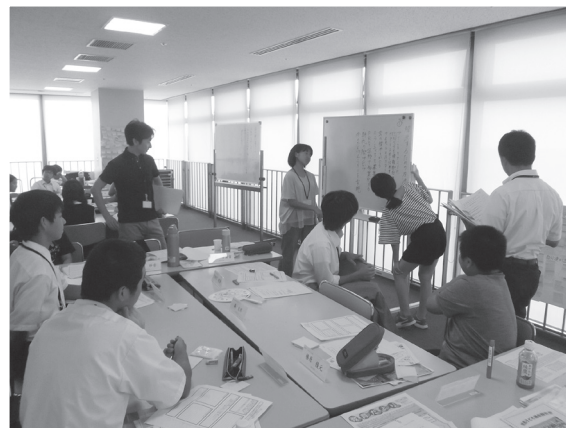
取り組みについて」



相澤 郁花（大泉西中学校）青嶋 有威（豊溪中学校）阿部 真佳（大泉中学校）
宇田川 晴希（豊玉中学校）酒井 紗香（谷原中学校）酒井 望（北町中学校）
二木 日海留（貫井中学校）榛原 優元（八坂中学校）森 友那（大泉学園中学校）
P.T 渡辺 雅昭（子育て支援課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて

調査目的

中高生の児童館、図書館の利用実態を調べるため。

調査場所

練馬図書館、中村児童館

調査内容・方法

職員の方にインタビュー

施設見学

区の現状（すでに実施しているか）

中高生の利用者が少ない。

中高生の専用時間がある日は週２回

音楽室があったり、クッキングができたりする。

課題・問題点

- ① 宣伝が不足している。
- ② 中高生が利用しやすいような設備が整っていない。
- ③ 中高生にとって魅力的な行事が少ない。

解決策の検討項目

- ① 宣伝を改善する。
- ② 中高生が利用しやすい設備を検討する。
- ③ 中高生が参加したいと思える行事を行う。

解決するための方法・手段

- ① プリントをカラーにする。SNS でも情報発信する。HPを上手く活用する。
- ② Wi-Fi 設備、学習スペースを設ける。
- ③ 中高生限定のスポーツ大会、地域の運営、ボランティアへの参加を促す。
例：お祭りの運営、スポーツを教える

自分たちができること

使わなくなったもの、工作で使うものなどを寄付する。
ボランティアに参加する。
友達に声をかける。
積極的に参加する。

練馬子ども議会 開会宣言



平成30年度 練馬子ども議会開会宣言座席表（議場）

青少年課長	議長（小林）
-------	--------

演壇

中高生 どんどん行こうよ 児童館
～児童館の利用率ハンパない～
グループ

榛原	宇田川	山内
森	酒井(紗)	相澤
	酒井(望)	青嶋
	二木	阿部(真)

Enjoy Computer！！
Enjoy School life
グループ
広まれ2R
～Remember Blue～
グループ

呉	足立	鹿野	秋田
田口	阿部(弥)	竹内	大山
橋本	荒井	谷内	粕谷
松本	木田	檀原	久保

Find The Light
～練馬区の光を見つけよう！～
グループ

鳥居	(小林)	天野
前床	鈴木	大根原
山崎	田中	菊池

練馬子ども議会開会宣言

(平成30年7月31日(火)：午前10時～午前10時5分)

青少年課長

ただいまの出席議員数は、35名でございます。

議長

本日の議長を務めます練馬子ども議員、南が丘中学校2年、小林篤生です。よろしくお願いします。

ただいまから、練馬子ども議会を開会します。直ちに、本日の会議を開きます。



会議録署名議員の指名

議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。

小林 篤生 議長

田中みまり議員、谷内晴議員、荒井千尋議員、酒井紗香議員、以上の4名の議員にお願いします。

次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。

子ども議会の会期は、本日および8月7日の2日間としたいと思いますが、これにご異議はありませんか。

子ども議員

(異議なし)

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月7日の2日間とすることに決定しました。

次に、政策提言について、第1提案「練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて」、第2提案「ごみになるものを減らす取り組みについて」、第3提案「ICTの利用状況とその効果について」、第4提案「中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて」が提出されています。

政策提言につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し、付託したいと思います。これにご異議はありませんか。

(異議なし)

議長

ご異議なしと認めます。よって、政策提言は、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で本日の日程は終了しました。

これをもって散会します。

意見交換会



練馬子ども議会・意見交換会

(平成30年7月31日(火)：午前10時15分～午前11時30分)

『練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて』

Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～グループ

質問：インスタ映えとは具体的にどのようなものですか。

回答：インスタグラムというアプリがありますが、その中で、写真がすごくかわいらしく見えるなどが、インスタ映えだと思います。

質問：それは、練馬区である必要が薄いと考えられる場所も多くあると思うのですが、練馬区なりの魅力とはなんですか。

回答：練馬区の魅力としては、まず自然が多いということです。石神井川沿いの桜並木などはインスタ映えすると思います。

質問：シェアサイクルの金額が高いとありましたが、具体的な金額を教えてください。

回答：月2,000円で会員になると、30分までが無料で利用できますが、30分を過ぎるとさらに延長料金が掛かかり、高いということです。

質問：アニメの聖地の話がありましたが、アニメを見ない世代もいると思います。ほかに方法は考えられますか。

回答：アニメ以外にもバリアフリーとか、テクノロジーとか、いろいろと検討していて、アニメ以外でも、ほかの方法で練馬のPRをできるようにしていきたいと思っています。

質問：アニメの聖地を探すツアーとありますが、このツアーとは、ツアー会社などがやるものなのですか。それとも、練馬区でやるものなのですか。

回答：練馬区と企業が協力して行っていただけだと思います。

質問：インスタ映えやアニメ、テクノロジーなど、いろいろとありますが、若い世代にとっても重要なことだと思います。しかし、練馬には子供世代や大人世代もあります。

また、お年寄りの世代もあるので、全ての世代にかかわるようなことについての観光については、何かありますか。

回答：助け合いやバリアフリーなどは、高齢者の方や障害のある方などに配慮されていると思います。

質問：SNSや「とっておきの練馬」というサイトを個人だけでなく学校全体でも活用するとありますが、そういったものを見る人はいるのでしょうか。練馬の観光PRに活



用するための選択肢としては入りづらいような気がします。いかがですか。

回答：練馬区について知ってもらうという観点で、SNSに投稿するという手段を使うべきだと思います。

実際に練馬区内でもSNSや「とっておきの練馬」で、写真を掲載していると思いますが、今以上にもっと練馬区の知名度を上げるという意味ではSNSを活用し、各学校にも協力をお願いするという手があるのではないかと思います。

質問：シェアサイクルの設置場所を増やすとありましたが、現在、シェアサイクルは町中など、人が多くいるような場所に設置されていることが多いと思います。

今後、増やすとしたら、どのような場所に増やしますか。

回答：現在、石神井などに集中していますが、東側や西側にも増やしていければと思います。

『ごみになるものを減らす取り組みについて』
広まれ2R～Remember Blue～グループ

質問：ごみの分け方について、表を細かく作るとのことですが、これらはどう拡散しますか。

回答：具体的にごみの分け方について、より細かな表を使った分類や、絵を使ったわかりやすい表示している紙を、各家庭に配付したり、集積所に新しく貼ってもらうことを考えます。

質問：紙を減らす取り組みとして環境に配慮した紙を利用するとのことですが、例えばどのようなものですか。

回答：わら半紙などの用紙を利用することや、古紙配合率の高い用紙を考えています。

質問：食べられるものが約1,700トンも捨てられてしまっているとありましたが、食品全体のどれぐらいの割合ですか。

回答：1.2%ほどです。

質問：政策提言全容図に、ごみの分別を呼びかけ、できること、得することを伝えるとあるのですが、ごみの分別で得することとは何ですか。

回答：ごみの分別をすることで、リサイクルにかかる練馬区全体の費用が抑えられ、税金の使い道が広がると考えます。

質問：フードドライブとはどのような取り組みですか。

回答：フードドライブとは、賞味期限が切れていないにもかかわらず廃棄されてしまう食品を、必要な人に利用してもらう取り組みのことです。主にカップ麺や袋詰めの乾燥麺のように生ものでない食品が対象です。



質問：ポスターの制作は全校で行いますか。また、実際に選ばれたポスターはどうなりますか。校内だけの拡散になりますか。

回答：まず、一つ目のポスターの制作についてですが、これは練馬区から全校に呼びかけ、できる限りで実施していきます。

また、選ばれたポスターについてですが、練馬区がネットを活用するなどして、多くの人にその成果を見てもらえるようにしたいと思います。

質問：ごみの分け方の分別表はどこに置く予定ですか。

回答：先ほど伝えたとおり、集積所や各戸配布を検討しています。

質問：紙のリサイクルについて、わら半紙を挙げていましたが、コピー用紙よりもわら半紙の価格が高いという話を一度聞いたことがあります。その点については、どのように考えていますか。

回答：金額が高く経費がかかってしまっても、紙などの資源は重要な、貴重な地球としての財産なので、そちらを優先した方がよいと思います。

質問：ポスター制作についてですが、制作する段階で、無駄な紙は出ないのでしょうか。それについての対策はどのように考えていますか。

回答：まず、やる気のある人だけに参加してもらい、紙が無駄にならないように必要な人へ配付します。

『ICTの利用状況とその効果について』

Enjoy Computer!! Enjoy School life グループ

質問：ICTとはどういうものか教えてください。

回答：ICTとは、情報通信技術のことです。

質問：ICTの導入がある他区と比べて、練馬区の学力は余り大きな差がないと思います。

ICTモデル校に5年間で8,000万円もの経費を使ってまでICTを充実する理由はあるのですか。

回答：ICTの導入がある区とない区において、

学力の差があまりないにしても、ICTを導入しているほかの区や自治体では、授業がさらに進むと問題演習などができるなど、様々なメリットが生まれると考えます。

ICTを活用して頭をより良くしていくことなどにつながるのではないかと考えます。

質問：ICTモデル校は、現在何校あるか教えてください。

回答：小学校と中学校を合わせて6校あります。

質問：ICT機器には、ブロックはかかりますか。もし、そうであれば、授業で使用したいサイトなどにブロックがかかっていた場合はどうしますか。

回答：練馬区でサイバーポリスを設けてブロックをかけています。このサイトは使わない



方がいいのではないかと、このサイトよりも、もう少しいいサイトがあるからこっちを活用した方がいいとか、練馬区で一定の基準を設けていると思われます。サイバーポリスなどは練馬区の決まりのようなものなので、学校ではどうすることもできないと思いますが、検索するキーワードを変更したりしてサイト検索すると良いと思います。

質問：「私たちができること」の中に、日常的にもＩＣＴを使うとありますが、それは学校内でＩＣＴを日常的に使うことですか。それとも、個人的に家などでもＩＣＴに触れることですか。

回答：学校内だけではなく、私生活の中でも触れていくことです。使いたくても自宅にＩＣＴがない人は、図書館などの使える場所へ行って利用してもらえればと思います。

また、日常的にＩＣＴに触れる機会がなく関心が余りない人に対しては、ポスターなどでアピールしていけたらと思います。ＩＣＴに魅力を感じるような活動など、生徒の皆さんの興味がわくような内容にできればと思います。

質問：モデル校のＩＣＴの効率化についてお話を伺ったのですが、もしモデル校のみが先進的に技術が進んでしまうと、一般校との学力差が広がり、少し不公平といった形になると思うのですが、それについてはどうでしょうか。

回答：練馬区のモデル校というのは、平成29年度に、モデル校になりたいという学校を公募して、まず6校、そのうち中学校では2校選びました。

3年ごとに1回、モデル校を解除して、またさらに公募していくという形になるので、一つの学校だけ、ずっとモデル校であることがないので、偏ることはないと思います。モデル校で培ってきた技術が、ほかの学校にも反映されると思います。

『中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて』

中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ

質問：中学生に魅力的な行事が少ない、中高生向けの施設が少ないなどとありましたが、そもそも児童館という名前の、「児童」という意味は小学生のことを指すので、それが小学生向けにつくられているのは仕方ないことだと思います。それについてはいかがですか。

回答：児童館というものは、青少年の居場所としてつくられていて、青少年は0歳児から18歳までを指します。そういう意味では、青少年である中高生の居場所なので、中高生も活用できる場所でもあると思います。

質問：中高生が増えた場合、それまで遊んでいた小学生は結果的に場所を奪われるような形になってしまうと思います。小学生に対しては何か対策を講じる予定はありますか。

回答：中高生は、小学生とは違う専用の時間帯を利用するので、大丈夫だと思います。

質問：解決するための手段に、Ｗｉ－Ｆｉの設備や学習スペースを設けるとありますが、Ｗｉ－Ｆｉを利用するのはスマートフォンを持っている方だと思います。中学生の取

得率は40%とのことで、半数に達していないですし、学習スペースなら図書館にもあると思います。それを児童館に限定するのはなぜですか。

回答：児童館の場合、図書館よりも中高生の利用数が少ないため、児童館にWi-Fiや学習スペースを設置することで、図書館よりも親しみやすく利用できると思います。

また、図書館は混む場合が多く、児童館も利用できると良いと思います。

質問：最寄りの児童館では、6時や7時に閉まってしまいましたが、平日に部活のある中学生にとっては、利用しにくいと思います。中高生専用の時間というのは、どのように設定されていますか。

回答：児童館は、中高生の専用時間として週に2日ほど設けていますが、6時や7時に閉まってしまいます。そのため、現状としては、部活が休みになる試験期間中に利用すると良いと思います。ほかには、自分が暇な時間や、夏休みでも児童館は空いているので、部活前に少し寄ってみるなど休憩の場としても使えます。



質問：児童館はたくさんの人に楽しめるような工夫をされていると思うので、中高生が求めている設備や内容に対応するのは難しいと思います。部活動に行ったり、より多くの資料がある図書館を利用したり、小学生に比べて行動範囲も広がるので、児童館に行こうという考えにはならないと思います。児童館には限界があるのではないかと思います。いかがですか。

回答：音楽とか、そういうのに特化したというと、僕らが見学した中村児童館には、ギターとかドラムとか、そういうのが設置してあるところもあったので、そういうところも児童館にはあります。その様なところにSNSや、ホームページで見つけて、行ってもらえればと思います。

質問：「私たちができること」の中に、自らが利用者になって足を運ぶというのがありました。私の家の近くの児童館は、小学生が中心となっていて、行きづらいです。児童館といえば小学生が利用するという固定観念があると思いますが、それはどう解消しますか。

回答：そこで、SNSなどで情報発信して、イベントなどの呼び込みをすることで児童館に来てもらいます。それで固定観念が消えることもあると思います。

質問：中高生の利用率が増えて、中高生限定の時間を設けたとしても、それで小学生たちが行く時間が減ってしまい、行きづらくなってしまう場合はどうしますか。

回答：中高生の利用時間については、小学生がもう帰らなければいけない時間の後に設けられているので、小学生の利用時間が減ったり、行きづらくなることは無いと思います。

政策提言発表



平成30年度 練馬子ども議会 政策提言発表 次第

平成30年8月7日（火）
午後1時30分～午後3時
練馬区立生涯学習センターホール

1 挨拶

2 政策提言発表会

(1)開会

(2)政策提言発表

提言1 テーマ 練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて
グループ名 Find The Light
～練馬区の光を見つけよう！～

提言2 テーマ ごみになるものを減らす取り組みについて
グループ名 広まれ2R～Remember Blue～

提言3 テーマ ICTの利用状況とその効果について
グループ名 Enjoy Computer!!
Enjoy School life

提言4 テーマ 中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて
グループ名 中高生 どんどん行こうよ 児童館
～児童館の利用率ハンパない～

※グループ毎に、地域調査の報告、政策提言発表、質疑応答を行います。

(3)講評

(4)閉会

練馬子ども議会・政策提言発表

(平成30年8月7日(火)：午後1時30分～午後3時)

青少年課長

ただいまの出席議員数は、35名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、南が丘中学校2年、小林篤生です。よろしくお願いします。

ただいまから、本日の会議を開きます。これより、平成30年度、練馬子ども議会政策提言発表を議題とします。意見交換会での審査の結果、今年度の政策提言は、「練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて」、「ごみになるものを減らす取り組みについて」、「ICTの利用状況とその効果について」、「中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて」の四つになりましたので、報告を求めます。

順次、発言を許可します。

「Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～グループ」、お願いします。



『練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて』

Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～グループ



私たち「Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～グループ」は、練馬ならではの観光スポットを見つけるために、石神井観光案内所、産業観光情報コーナーに行き、職員にインタビューをしてきました。

この写真は、石神井観光案内所での写真です。

みんな壁にはられている石神井の周辺の地図



に注目し、古山さんの説明を聞いています。

石神井観光案内所では、職員さんのお勧めスポットやインスタ映えする場所、シェアサイクルでの現状や練馬の改善するべき点について、知ることができました。

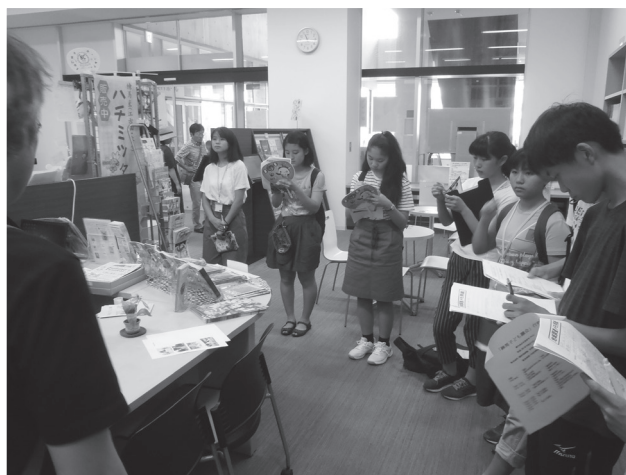
2枚目の写真は、石神井観光案内所でのお土産やネリコレのコーナーの写真です。

ネリコレとは、練馬のお勧め商品コレクションのことです。2018年には合計77商品を新たに認定しました。

このコーナーには、練馬の特徴をあらわしたものがたくさんあり、その中で印象に残っているものは、練馬産の蜂蜜です。練馬で蜂蜜が取れることを知らなかったのが驚きました。

このように、お土産やネリコレの商品について学ぶことができました。

3枚目の写真は、練馬駅のココネリにある産業観光情報コーナーへ取材に行ったときのものです。



ここでは、練馬区の農業やアニメなどのお話を聞くことができました。

農業では、世界都市農サミットが開かれること、アニメでは、練馬区内で聖地巡礼の取り組みが行われていることなど、練馬区の産業や観光資源が、より具体的にわかりました。

これで、「Find The Light ～練馬区の光を見つけよう！～グループ」の地域調査の報告を終わります。

以上の調査をもとに、政策提言に移ります。

私たち「Find The Light ～練馬区の光を見つけよう！～グループ」は、練馬の観光について発言します。

私たちの住んでいる練馬区は、自然や緑に囲まれた住みやすい町ですが、区民や区外の人に、その魅力を伝えることが得意ではありません。

今回、私たちは練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて、観光案内所へ行って、職員の方にアンケート調査を行い、五つの問題点を見つけました。

一つ目は、歩道が整理されていないところがある。そのため、車椅子や目や足の悪い人にとって、通行が不便で、思いどおりに観光できないということが起きています。

二つ目は、多言語のパンフレットをどのように利用していくかということです。パンフレットの数が少ないことや、観光に訪れた海外の人が必要なものが薄いということが問題となっています。

三つ目は、パンフレットやインスタ映えをする場所をどう宣伝するかという問題が挙げ

られています。

四つ目は、シェアサイクルが余り活用されていないことです。

シェアサイクルとは、地域内に設置された複数のサイクルコーナーで自転車を借り、どこでも返却できるシステムです。

しかし、「設置場所に偏りがある」、「練馬区内でしか使えない」などの理由で、利用が少ないというのが現状です。

五つ目は、アニメという資源の活用法です。

練馬区は、アニメの町としての知名度がありますが、練馬を題材とした作品が少ないため、具体的なイメージを持たない人も多くいます。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

一つ目のバリアフリー化の問題です。

しっかり計画を立て、バリアフリーの意識を広めていくことが必要だと考えます。

具体的な方法としては、障害者や高齢者の目線に立って観光を体験する会を開くことが必要だと考えます。

二つ目のパンフレットの多言語化については、自動翻訳機などのテクノロジーを利用することを提案します。

パンフレットや看板に直接掲示するよりも簡単に、よりわかりやすくなると考えます。外国人がよく来る場所に自動翻訳機を設置し、外国人が余り来ない場所には多言語化したパンフレットを設置するべきです。



三つ目のパンフレットやインスタ映えする場所の宣伝については、ホームページを活用することです。「とっておきの練馬」をというホームページに写真をアップすることで、今より多くの人に練馬区の魅力を知ってもらえenと思います。

四つ目のシェアサイクルをどう活用するかについては、区内のポートの設置場所を増やすことで、手軽に利用することが利用者を増やすことにつながります。

一つのポートに自転車の台数を減らし、ほかの地域に設置場所を増やすことが重要です。シェアサイクルには借りたところで返すというルールはありません。偏りをなくすことで使い勝手がよくなり、利用者を増やすことができると思います。

五つ目の練馬の重要な観光資源であるアニメをどう生かすかについては、区内にあるアニメの聖地に人をたくさん呼ぶことを提案します。

アニメの聖地を自分たちで探すツアーを実施する。練馬をモデル地としたアニメの作成を促すことなどで、練馬区の魅力がアップすると思います。

私たちにできることは三つあります。

一つ目は、車椅子の方や目の不自由な方、耳が聞こえない方などがいたら助け合うということです。

私たちは、ふだんから助け合うということ意識して行動し、声をかけ合うことで、どんな方でもたくさんの人が楽しめるのではないかと考えました。

二つ目は、自分で区内の観光地をSNSに投稿すること、または、学校全体でSNSを使い、学区内の魅力を投稿することです。

自分で区内の観光地をSNSに挙げることで、たくさんの人に見てもらうことができます。さらに、学区内で教員の同伴を条件に写真を撮り、学校で開設したアカウントでSNSに挙げる。もしくは、各学校のホームページに挙げることで、区内のほとんどの地域の魅力を伝えることができます。

このように、SNSを利用できる人から広めていきます。SNSを利用できない人は、利用できる人が手助けをします。

それを区外の方や外国人観光客の方に見てもらえば、観光客も今以上に増えるはずです。SNSのルールを守りながら続けていけば、きっと区内に訪れる観光客も増えると思います。

三つ目は、英語を一生懸命勉強することです。

区内に住む私たち全員が英語を話せるようになったら、多言語パンフレットをつくらなくても、外国人観光客が困らないのではないのでしょうか。

小学校でも英語の授業が増えた中、私たちが身近にできることだと思います。



以上で、「Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～グループ」の発言を終わります。

議長：ありがとうございました。次に、ただいまの発表について質問があればお願いします。

質問：そもそも、練馬が舞台のアニメを知られていないように感じます。例えば、誰でも見られるサイトで、フルで掲載などをするのはどうでしょうか。

回答：練馬は日本アニメーションの発祥の地で根強い人気を持っています。例えば、「ゲゲの鬼太郎」、「銀河鉄道999」などです。

動画を投稿するなどについては、著作権法違反の恐れがあると思うので、観光を担当する課がやることではないと思います。

質問：アニメの町としては知名度が低いと感じられます。そのための具体的な対応策を持っていますか。

回答：練馬区がアニメの町だというのは、アニメが好きな人によく知られています。しかし、アニメの関心が薄い人には、余り知られていないのも事実です。

これからは、アニメのイベントなどを積極的に行い、アニメの町のイメージを広めることができればと思います。

具体的なタイトルとしては、「四月は君の嘘」、「ドラえもん」などが挙げられま

す。どちらも練馬区を舞台とした作品で、「四月は君の嘘」については、パンフレットが作成されており、聖地巡礼に積極的に取り組んでいます。

質問：助け合うことを意識して行動し、声をかけ合うこととは、具体的にどのようなことですか。

回答：具体的には、車椅子の人がいたら広い道を教えてあげたり、平らな道を教えてあげることで、お金をかけてバリアフリーを強化するよりも、このように一人ひとりが意識して行動すればよいと考えています。

質問：外国人観光客は、余り多くないと感じています。それに対して、自動翻訳機などのお金のかかるテクノロジーの導入は本当にするべきなのでしょう。

回答：日本人だけの観光と考えたら、そのようなテクノロジーは必要ないと思いますが、最近アニメの聖地巡礼などで、練馬区を訪れる外国人観光客もいます。ですので、外国人も観光しやすいようにするため、テクノロジーは必要だと思います。

質問：観光グループの政策提言に英語を勉強するとありますが、英語を話せるようになることはよいと思います。

ですが、日本に来る外国人は英語を話せる人ばかりではないと思います。中国や韓国の方などもいらっしゃいます。英語だけというのはどうなのでしょう。

回答：英語は国際的な公用語ですし、私たちにとっても身近なものなので、英語を覚えるのが一番いいと思います。

議長：ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「広まれ2R～Remember Blue～グループ」、お願いします。

『ごみになるものを減らす取り組みについて』 広まれ2R～Remember Blue～グループ



私たちのグループは、ごみを減らす取り組みとして、現在行われている取り組みを調べるために、練馬清掃事務所に行き、職員の方にお話を伺ってきました。そこでお話を伺い、二つのことがわかりました。

一つ目は、平成10年から平成28年までで人口が8万人増えたものの、ごみは9万トンも減ったという成果についてです。

二つ目は、東京の埋立処分場は残り50年ほどしかもたず、現在、対策を考え中だという



ことを目的に、区内では全部で4か所あり、区民の皆様が親しまれています。

この写真は、区民の皆様からお寄せいただいた食器類の販売、また粗大ごみの中から再利用できると判断された家具類などを修理、販売しています。利益は区のために使われ、多いところで年間200万円ほどです。

その他にも、リサイクルセンターには、区立図書館の受付窓口の運営を含めたオープンデッキ、区民の皆様との交流室なども備えています。さらに、区民の皆様が時間単位でご利用いただける多目的室などもあります。

このような区民の皆様がかかわりやすいような施設をさらに活発に、区政を身近に感じていただくことで、練馬区は、より良くなると考えます。

最後に、私たちは粗大ごみのリユースの様子を調べるために、練馬区資源循環センター

課題についてです。

この課題には、今回、私たちがテーマとしているごみを減らす取り組みがつながっています。

これは、豊玉リサイクルセンターでの写真です。

リサイクルセンターとは、循環型社会の実現のため、自然や物を大切にする暮らし方、環境やリサイクルについて、次世代へ伝える



に行きました。

ここで私たちが聞いたことは、練馬区の粗大ごみ処理や、ほかのリサイクルの様子です。また、粗大ごみになってしまう寸前の家具を区内リサイクルセンターで格安で売っています。

粗大ごみの処理は、ほかのごみに比べて格段に難しいので、これを活用すべきではないかと強く考えます。

以上の地域調査を踏まえ、「広まれ2R～Remember Blue～グループ」の提言に打ち出させていただきます。

私たち「広まれ2R～Remember Blue～グループ」は、ごみになるものを減らす取り組みについて発言します。

まず、練馬区の人口が年々増加している一方、ごみの量は減少しています。

それは、リサイクルセンターでの再利用家具や食器類の販売、その他、フードドライブ

など、さまざまな取り組みを実施しているからです。

ただし、資源、ごみの分別が徹底されていないことも現実で、まだまだ、ごみを減らす取り組みはあると考えます。

そこで今回、私たちは、ごみ減量のための取り組みを調査するため、練馬清掃事務所、豊玉リサイクルセンター、練馬区資源循環センターに行って、担当している職員の方にお話を伺ってきました。

そこから、次に述べる三つの問題点を見つけてきました。

一つ目は、ごみの分別ができていない部分があるということです。正しく分別をすれば資源としてリサイクルできるものが、可燃ごみの約20%を占めています

二つ目は、食品ロスの問題です。

まだ食べられるものが、ごみとして多量に捨てられてしまっています。

練馬区では、可燃ごみのうち約1.4%、年間約1,700トンの利用されていない食品が捨てられてしまっています。

三つ目は、紙類が多量に使用されているということです。

学校などで配布されているプリントにも、減らせるものがまだあると感じます。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のごみの分別についてです。

解決をするためには、一人ひとりの意識の向上が必要です。多くの区民の方々に正しい分別の方法が定着すれば、より効率的な分け方が可能になると考えます。

具体的な方法としては、よりわかりやすく、分け方を表に示すなどがあると考えます。さらに、区民参加型のイベントなどを行うことを提案します。

次に、二つ目の食品ロスについてです。

必要な食材のみを購入することを呼びかけ、それによるメリットを区民の方々に伝えることが解決策になると考えます。食材を余分に購入し、捨てることは、お金を捨てていることと同じという感覚を示し、より多くの方からの理解と意識の向上を目指すことを区に提案いたします。

最後に、三つ目の不要な紙類の使用を抑えることについてです。

これについて、私たちの中学校8校で調査したところ、2週間で配布された紙類のうち、約37.1%が「紙である必要がない」と回答をもらいました。

具体的な解決策については、次の二つが挙げられます。

まずは、個人情報や踏まない配布物のネット掲示や、必要な人へのみ個人配付をすることです。そうすることで、全体的な紙量の抑制、インク代を含めた経費削減につながります。

もう一つは、紙の大きさや材質の変更です。区内の中学校では、配布物のほとんどがA



4 コピー紙に印刷されています。これを小さな紙に印刷することや、環境に配慮した紙に変更することで、資源を大切にすることにつながると考えます。

最後に、私たちができることは、各学校の委員会で生徒に呼びかけることです。

給食委員会は、食品ロスがなくなるように、残さず食べてもらうことを、整備、環境、美化委員会は、ごみの正しい分別を呼びかけてもらいます。これにより、中学生から環境への意識を高めることができると考えます。また、学級委員会からは、紙の有効利用策として裏紙を置き、計算やメモなどに使うことを呼びかけてもらいます。そうすることで、



無駄な紙を減らすことができると考えます。

そして、生徒会ではポスターコンクールを開催してもらいます。クラス代表で二人ずつポスターをかいてもらい、それに全校生徒で投票を行います。

ポスターの内容は、食品ロス、ごみの分別、環境の三つです。これらについて調べながら、生徒にポスターをかいてもら

うことで、より多くの人に知ってもらうことができるのではないのでしょうか。

私たち中学生も環境を守るため、このような取り組みを行いたいと思います。

以上で「広まれ2R～Remember Blue～グループ」の発言を終わります。

議長：ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：テーマが環境で、ごみについて考えるというのは、すごくいいと思うのですが、3Rや5Rがある中で、なぜ2Rを広めようと思ったのでしょうか。

回答：まず、2Rとは、余計なものを買わないリデュースと、ごみを出さないリユースのことです。もちろん、質問のように5Rもとても必要なことですが、私たちは身近ですぐに取り組めることを優先的に考えました。ごみを再利用するときにも資源は使われてしまっています。まず、ごみを出さないことで、資源を使わず環境に配慮することが、私たちが取り組まなければいけないことだと思い、今回は2Rを選びました。

質問：フードドライブは、どこで開催するのですか。

回答：フードドライブの取り組みは平成29年度から実施しています。

区は、29年度に区内4か所のリサイクルセンターで実施し、1月に練馬区役所で実施しました。今年は、区内で開催されるイベントなどでブースを設け、皆さんからの協力を求めていく予定です。

質問：食品ロスを減らす取り組みを広げるのはいいことだと思います。どこでやっているのか知りたいので教えてください。

回答：区内リサイクルセンターにおいて、食材を無駄なく使う料理講座を実施しています。その他、ねりま区報や、年1回発行している情報誌などで、食品ロスを減らす工夫についてお知らせしています。

また、区のホームページでは、食材の捨ててしまいがちな部分を使った具体的なレシピも公開しています。

質問：具体的に、ごみの分別に関する呼びかけとは、どのようなものですか。

回答：練馬区では、引っ越してきた人に資源・ごみの分け方と出し方のパンフレットを配布しています。また、外国の方などについては、外国語用のパンフレットを配布しています。

余計な紙が増えるとの質問もありますが、パンフレットのような紙は、どうしても必要になるものもあると思います。必要な人にのみ配布したり、集積所に掲示したり、区のホームページを利用したりと、使用する紙を最小限に抑えたいと考えています。

議長：ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「Enjoy Computer!! Enjoy School lifeグループ」、お願いします。

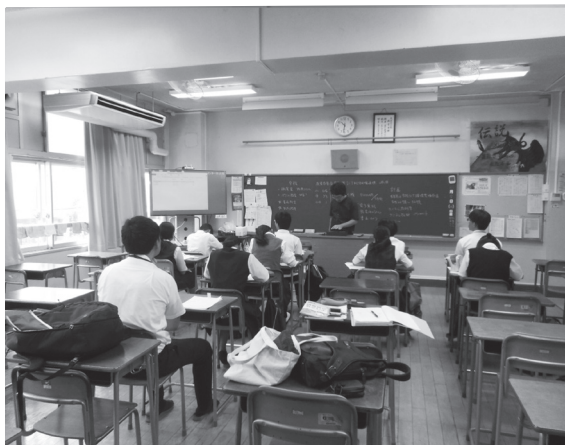
『ICTの利用状況とその効果について』

Enjoy Computer!! Enjoy School lifeグループ



私たちは、ICTの普及と利用上での理解を明確にするために、大泉中学校へ行きました。

1枚目の写真は、実際にICTを使った数学の授業を受けたときの様子です。点が動く問題をアニメーションで見たり、文章題の問題を解いたりしました。

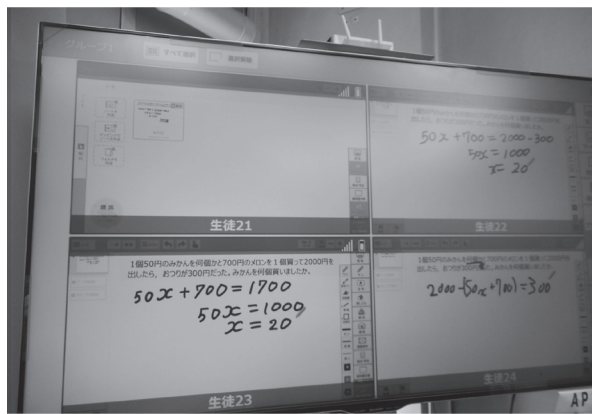
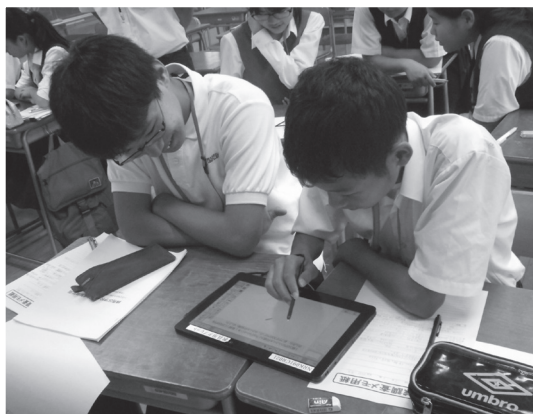


2枚目の写真をお願いします。

2枚目の写真は、二人一組になって問題を解いている様子です。この解法はタブレットに書きます。

3枚目の写真をお願いします。

そうすると、このように生徒の考えが電子黒板に映し出されます。



そのため、生徒が黒板に考えを書く時間がなくなり、演習を解く時間などが増えます。また、充実した考えの共有もできます。その考えには、先生がマーカーで修正をしたり、大事な部分に線を引いたりできます。そうすると、要点をつかめ、生徒が理解しやすくなります。

調べたことをもとに、これから発表します。

私たち「Enjoy Computer!! Enjoy School lifeグループ」は、学校ICTの利用状況とその効果について発言します。

私たちの住んでいる練馬区は、他区と比べて学校ICTの導入が遅れており、先生や生徒のICT機器の技術に個人差があります。

また、ICTの導入により、授業の短縮につながっていますが、ICTの導入には多くの費用がかかっているというのが現状です。

今回、私たちはICTの普及と利用上での理解を深めるために大泉中学校に行きました。そこで、学校の先生に対してインタビューをして調査しました。

そこから、次に述べる三つの課題点を見つけました。

一つ目は、モデル校でもICT機器などの導入が少ないことです。そのため、特別教室や一部の普通教室で使えないことがあります。

二つ目は、ICT技術に個人差があり、授業に支障が出る場合があります。

三つ目は、ICT機器のスペックが足りないことにより、機械トラブルが起きることです。

以上の課題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目の、モデル校でもICT機器の導入が少なく、特別教室や一部の普通教室で利用できていないという課題は、モデル校がICT機器を適切に管理することで解決できると考えます。

具体的な方法としては二つあると考えます。

一つ目は、時間割りを調整することです。



I C Tを使用する教科同士が重複することがないように時間割りを組むことができれば、特別教室や一部の普通教室で、必要なときにI C Tを利用できないということとはなくなると考えます。

二つ目は、I C Tを使用する授業と、しない授業を並行して行うことで、I C Tの不足を補うというものです。地域調査でI C Tが導入されているモデル校を訪れる際、数学を担当されている先生は「I C Tを使用することで、今までよりも授業にかかる時間が短縮された」とおっしゃっていました。ほかの授業に関しても同じように「授業にかかる時間は短縮されている」ともおっしゃっていたので、あいた授業では問題演習などをして、I C Tを使用する授業と使用しない授業を並行して行うことができれば、特別教室や一部の普通教室で必要なときにI C Tを使用できないということとはなくなると考えます。

二つ目のI C T技術に個人差があり、授業に支障が出るという課題については、先生と生徒のI C Tの理解と関心を深めることで、解決できると考えます。そうすることで、I C T技術の個人差による授業への支障が減ったり、授業に集中したりする生徒が増えると思います。

具体的な方法としては二つあります。

一つ目は、放課後に研修会や学習会を開催することが必要だと考えます。そうすることで、I C T技術が高まり、授業への支障が減るのではないのでしょうか。

二つ目は、ポスターなどを作成し、生徒に対する関心を深めることが必要だと考えます。そうすることで、I C Tへの理解と関心が深まり、授業に集中する生徒が増え、成績の向上にもつながるのではないのでしょうか。



三つ目のデータの容量やセキュリティーにより、機械トラブルが起きることがあるという課題は、I C T専門家との相談体制を活用することで解決できると考えます。そうすることで、教師の負担を軽減し、授業中に起こるトラブルも少なくなるにつな갑니다。

具体的な方法としては、トラブル時の対応に備え、I C T専門家との相談体制を活用することが必要だと考えます。専門家との相談体制を活用することによって、教師が資料をつくる時間が少なくなり、授業をわかりやすく教えるために、考える時間が多くなります。また、トラブルが起きてもすぐ解決するため、授業時間も長くなると考えます。

最後に、私たちができることは四つあります。

一つ目は、日常的にI C Tに触れることで、関心及び理解を深めることです。

そうすることで、I C Tを導入した際に、ある程度、知識、理解があれば、スムーズに導入が進むと考えられます。

二つ目は、I C Tが得意な生徒が中心になって、生徒同士で教え合うことです。

そうすることで、I C Tが苦手な生徒を減らすことや生徒同士の交流、得意な生徒自身

の知識の確認をすることができると考えられます。

三つ目は、ＩＣＴを利用してポスターなどを作成することです。

そうすることで、生徒のＩＣＴを使用している授業への興味がわき、集中して取り組み、授業態度改善や授業の内容理解につながると考えられます。

四つ目は、タブレットを運ぶなど、授業の準備に生徒も協力することです。

そうすることで、先生の負担も減り、授業の開始もスムーズになると考えられます。

以上で、「Enjoy Computer!! Enjoy School life グループ」の発言を終わります。

議長：ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：意見交換会でＩＣＴを日常的に導入することを区から勧めるという話がありましたが、ＩＣＴの使用は、視力の低下やトラブルに巻き込まれる可能性を上げることにつながると思います。そのようなことを区から勧めるという点については、どのように考えていますか。

回答：区で勧めるというのは、あくまで私たちが自分たちでできることは何かと考えたときに日常に導入するという意見で、区が勧めているわけではありません。

また、視力の低下やトラブルに関しては、各家庭でルールをつくって、安全対策を充実させていければいいと思っています。

質問：一つの授業で、ＩＣＴをどのような使い方をすれば効率よく授業をすることができるのでしょうか。

回答：自分たちは教える側に立ったことがないのでよくわかりませんが、地域調査で体験した授業では、生徒がタブレットを使用し、書いた答えを電子黒板に一齐に映すことで、答え合わせの時間が短縮されると考えています。

質問：ノートとＩＣＴを使った授業を並行して行うことはすごくいいと思います。しかし、ＩＣＴの使用能力の差をなくすことは難しいのではないのでしょうか。

回答：ＩＣＴの使用能力は、各教科と同じく、積み重ねによって習得することができると考えています。

質問：先ほど言っていた「ポスターをつくる」では、具体的にどのようなポスターをつくることで、生徒がＩＣＴに興味を持つことができるのでしょうか。

回答：ＩＣＴを使うことでできることについて、書いてもらいたいと考えています。

質問：ＩＣＴを使う授業と使わない授業では、授業時間が短縮される以外に、どのような差があるのでしょうか。

回答：ＩＣＴを使った授業では授業時間を短縮でき、余った時間で質問などができ、復習などの時間に使うことで学力の向上につながると考えています。

質問：モデル校以外でも、テレビなどを使って授業を行っていると思いますが、タブレットを使う意味はあるのでしょうか。

回答：タブレットはテレビと違い、自分の考えや意見を共有するために使うことができると思います。

議長：ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ」、
お願いします。

『中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて』

中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ



今回、私たちは、中高生に向けての授業や取り組みについて調査するために、練馬図書館に行き、職員の方にインタビューをしました。



そこでわかったことが、この写真のように、青少年に向けての本棚を設けたり、勉強スペースを設けたりしています。そのため、図書館の中高生の利用率は、比較的高いということがわかりました。

この写真は、中村児童館で中学生向けに、どのような設備や遊具があるかを見学し、説明を受けている様子の写真です。

見学を受け、中学生向けに料理ができる料理教室や、ギターやピアノがある音楽室

があることがわかりました。



最後に、皆様から見て左側に見えます画像は、私たちが中村児童館の職員の方々に、現状や取り組みを伺ったときのものです。

その結果、児童館が行っている活動、活動支援にあたり募集を始めたこちらのチラシを各学校に配布されることや、練馬区の各児童館で、中高生でも楽しめる遊びの多さを知ることができました。

また、事前に児童館の利用者に向けてアンケートを実施していただき、その回答もいただきました。

これらの地域調査をもとに、放課後学校外の活動について発表いたします。

私たち「中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ」は、放課後学校外の活動について発言します。

私たちが住んでいる練馬区には、児童館が17館設置されています。それらの児童館には、遊戯室や音楽室、図書室などがあり、小学生だけではなく中高生も利用できます。

また、区では中高生が気軽にのびのび使えるよう、中高生の居場所づくり事業として中高生専用の利用時間をつくっています。

しかし、平成29年度の統計では、児童館の利用者の合計が約72万人であるのに対し、中学生の利用者数は約3万4,000人、高校生の利用者数は約9,000人の計43,000人で、全体の6%と、とても少なくなっています。

今回、私たちは中村児童館と練馬図書館へ行き、施設見学と職員の方へインタビューをして、中高生に向けた授業や取り組みを調査しました。

そこから、中高生の利用率を上げるための三つの課題を見つけました。

一つ目は、中高生向けのPRが不足しているということです。

そのため、中高生専用時間や中高生向けの取り組みが多くの中高生には知られていません。

二つ目は、児童館には小学生や幼児向けの設備が多く、中学生が利用しづらいということです。

そのため、中高生が気軽に立ち寄れる状態とはなっていません。

三つ目は、中高生にとって参加したいと思える行事が少ないということです。中高生が来たいと思える行事を今以上に増やすことが必要と考えました。

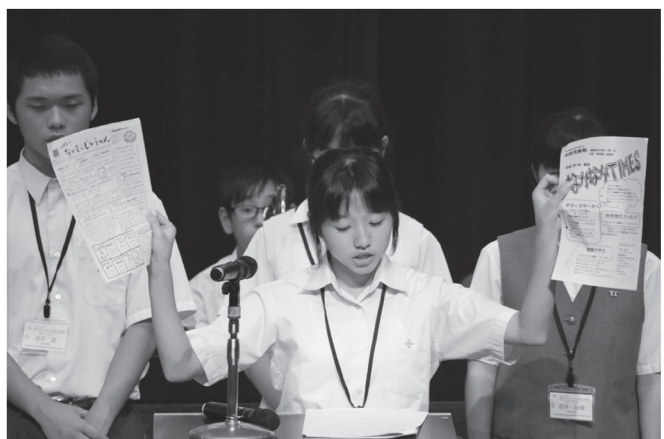
以上の課題を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のPRが不足していることについては、それを改善することです。

具体的な方法としては、現在、各中学校に配付されているプリントをカラープリントにすることです。そうすることで、中学生の興味を引きつけることができると考えます。

また、インターネットを利用したPR方法として、ホームページをうまく活用する、SNSでも情報発信をするというのはどうでしょうか。

ホームページの活用については、区のホームページの見やすいところに、中高生向けの



ホームページ、イベントを紹介するページを設置したらいいと思います。また、そのページへのアクセスを増やすため、ツイッターなどの中高生の利用頻度の高いSNSにURLをはり、ホームページに直接誘導することで、中高生の利用がさらに増えると思います。

二つ目の小学生や乳幼児向けの設備が多いため、中学生が利用しづらいことについては、中高生向けの設備を整えることが必要だと考えます。

具体的な方法として、誰でも利用できるWi-Fiの設置や学習スペースを設けることです。

学習スペースについては、図書館との大きな違いとして、集中して勉強できる環境が整っていないことがあります。なので、仕切りを設置するなどして、中高生が学習しやすい環境をつくるべきです。

また、Wi-Fiを設置することで、インターネットの利用率の高い中高生が来るきっかけになると考えました。

全国のデータでは、インターネットの利用率は中学生が約40%、高校生が約90%にもおよんでいます。それなので、インターネットの設備を整えることが中高生の利用率を上げることにつながると思います。

三つ目の中高生にとって、魅力的な行事が少ないことについては、中高生が参加したくなるイベントを増やすことが必要だと考えます。



具体的な方法として、中高生を対象としたスポーツ大会の開催、ボランティアの募集が挙げられます。これらを行うことによって、小学生が遊びに利用するイメージの強い児童館で、中高生も楽しんだりできると広く知ってもらえるきっかけになると思います。

また、ボランティアの内容については、例えば中高生が所属する部活や特技を小学生や幼児に教えることです。そうすることで、双方が楽しんだり、学び合ったりすることができます。

さらに、中高生タイムに限らず過ごすことができるのも利点の一つです。

そして、そのイベントをツイッターやフェイスブックなどのSNSで情報発信していくことで、より多くの中高生が、その存在を知ることができ、利用率アップにつながるはずです。

また、SNSでやってみたいイベントのアイデアを募集することで、より広い意見を反映させることができます。

最後に、私たちができることについて説明します。

一つ目は、使わなくなったもの、工作で使うものなどを、学校の生徒会やボランティア委員会などを通じて児童館に寄付することです。

例えば、皆さんが使っていたプラレールや人形などがあると思います。それらを捨てず

寄付することで、資源の再利用や、児童館にあるものがさらに充実すると考えます。

新たな遊具が増えることで子どもの利用者が増えるほか、寄付するものが参考書などの場合は中高生の利用者も増えるのではないのでしょうか。

二つ目は、児童館で募集しているボランティアに参加することです。

中村児童館では、秋祭りを行う際、中高生のボランティアを募集しています。そこに私たちが実際に参加することで、児童館がどのような場所なのかを知ることができます。さらに、児童館に興味を持つ人が増え、中高生の利用率が上がるのではないのでしょうか。

三つ目は、私たち自身が児童館を利用することです。

これは、今回の課題に対し、私たちがすぐにできることです。小学生と比べ、圧倒的に中高生の利用率が少ないです。だからこそ、私たちが利用者になるべきだと考えます。また、友達に声かけをすることも一つの手段でしょう。

例えば、一度児童館に行った人が楽しかったと思って、それを友達に勧めるとします。これらを繰り返すことで、児童館が身近に感じられる環境をつくることができると考えます。

以上で、「中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ」の発言を終わりにします。

議長：ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：中高生の利用率が上がることで、小学生に影響が出て、気軽に行けなくなると思うのですが、それについてはどう対策するべきだと考えていますか。

回答：多くの児童館では、大概、中高生のみ利用可能な中高生タイムが設けられています。そのため、乳幼児や小学生といった、ほかの利用者には差し支えがないと思います。

また、中高生の利用率が上がることで、児童館全体の利用年齢への層が広がることにつながることで、とてもいいことだと思います。

質問：感想になりますが、Wi-Fiの設備は私たちにとって助かるので、これが実現できるよう頑張っしてほしいと思います。

質問：児童館の閉館時間は、中高生の部活の時間と重なってしまうことがあるのですが、中高生の専用時間はどのように配慮されていますか。

回答：小学生が帰り始める時間からとなっており、中高生が落ちついて過ごせる時間になっています。

質問：現在、各中学校に配付しているプリントをカラーにするそうですが、そのプリントの内容は具体的にどのようなものですか。

回答：内容ですが、月による児童館でやる行事の説明や、ゲームで遊べますよとか、楽器があって楽しいですよというふうに、設備はどんなものがあるのかというものが書いてあります。

質問：ボランティアへの参加を呼びかける方法を教えてください。

回答：ツイッターなどの利用率の高いSNSにURLをはりつけて参加者を募ったり、広報プリントにもその内容を盛り込むことで、より多くの人が見にする機会をつくれる

と思います。

議長：以上で、政策提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった政策提言について、教育長から講評をお願いします。

教育長による講評

教育長



河口教育長

教育長の河口でございます。

まず、生徒の皆様、どうもお疲れさまでした。

6月から、自分自身の問題意識をもって個人学習をし、7月7日に集まって第一回の学習会を行ったと聞いています。

そこから、地域調査、政策提言案の作成、そして、先月末に意見交換会を行いました。私も意見交換会には途中

まででしたが、参加させていただいて、やりとりを聞いて本当に感心しました。

政策提言案についても、言葉遣いも含めて、よく考えてつくられていました。また、発表に対する質問も鋭かったです。皆さんが真剣に臨まれたのだなと、とてもうれしく思いました。

意見交換会を経て、さらに政策提言案をブラッシュアップして、本日のこの発表会に皆さんが臨まれたということでもあります。

まず私が感心したのは、地域調査の結果からどこが問題なのかを挙げてくれたことです。その課題の抽出が、とてもよくできていたと思います。

その課題に対する解決策ですが、少し抽象的ではあるけれどもいろいろな観点から示してくれました。きちんと課題と解決策とが対応していて、とても良かったです。

何よりも私が感心したのは、自分たちが具体的にできることを挙げてくれたことです。解決策が抽象的に終わるのではなくて、課題の解決に近づくために自分たちができることを考え、そのことをきちんと政策提言の中に入れ込んでくれました。

これは、とてもすばらしいことだと思いますし、皆さんが学習会の中で、一生懸命議論した様子が見えるような、感じがしました。

一つ一つを見てみますと、まず、「Find The Light～練馬区の光を見つけよう！～」というグループです。

観光というテーマですね。

観光というテーマは、練馬区の場合は、大変難しいです。特に誰もが知っている観光の名所があるわけではありませんが、それでも練馬区の魅力をもっと知ってもらいたいという皆さんの気持ちが出ていたと思います。

しかも、単に観光をみんなで広めようということだけではなく、そのために支えとなる、歩道の整備やシェアサイクルのようなハード面も難しい問題ですがしっかり押さえ、外国人に対しては、どの様なPR、広報をしていくかというソフト面、さらに、アニメの活用の仕方というところも、非常に多角的に観光の問題を考えてくれて、本当に感心しました。

ほかにも、練馬区は大きな都市農業があり、来年は世界都市農業サミットというものを練馬区で開こうと思っています。このことも覚えておいてください。

皆さんが日ごろ、何げなく目にする学校の隣にある畑、これは、大都市の中で極めて珍しい場所であります。それが多くの人々の潤いだったり、あるいは食生活において重要な役割を果たしていたり、さまざまな機能を果たしています。それを今度は観光にも生かしていこうと考えています。

それから、ひょっとしたら皆さんの学校だって、いつか観光名所になるかもしれません。皆さんが頑張って、有名人か何かになったら、出身校にたくさんの人が訪ねてくるかもしれませんよ。

皆さんが日常的に何げなく見ているものも、場合によっては、素晴らしい観光資源になり得ます。練馬区がこれから、もし魅力をもっと外に向かって発信できるとしたら、皆さんのやわらかい頭、感性で、新しい練馬区の魅力をぜひ発掘して、広めていていただきたい。そのことをぜひお願いしたいと思います。

2020年にオリンピック・パラリンピックが開かれます。多くの外国人も来るかもしれません。そういうときにはぜひ、皆さんが主役で頑張っていたきたいと思います。

2件目の「広まれ2R～Remember Blue～グループ」の皆さん方は、今度は一転して環境問題。これに取り組んでくれたわけですね。

この環境問題というのは、実に幅が広い。その中でも、とりわけ資源、そしてごみの問題、を取り上げてくれました。

皆さんも恐らく瓶、缶、ペットボトル、古紙、古布など、本当に細かい分別をしてもらっていると思います。そのおかげで、50年と言われている埋め立て地の寿命も少しずつ伸びてきていると言えます。

ですから、ごみの分別は、これからももっと進めていていただきたいと思います。

練馬区で初めて瓶、缶、ペットボトルの分別を始めたときは、ちょうど私が担当でした。練馬区中で説明会を行いました。が、「そんな面倒くさいことができるわけない」と怒られました。しかし、これをやっていかないと東京のごみ問題は全く解決しないし、大変なことになりますと言って頭を下げ、理解してもらいながら、進めていきました。

そして、これからさらに分別を進めていくためには皆さんの若い力が必要ですので、ぜひお願いします。

また、2Rを強調したかったという話を聞いて、すごいなと思いました。

リデュース、リユース、リサイクル。これは3Rと言われており、今は5Rもありますけれども、その中でも特にリデュース、リユースは大事な優先順位1番、2番です。それを皆さんが挙げてくれたということは大変うれしいです。

食品ロスの問題がありました。

皆さんは、例えば給食を残してしまうことはありませんか。給食が残ってしまうことも食品ロスです。これは自分自身ができることですから、忘れずに頑張って取り組んでいただきたいと思います。

もう一つ、皆さんに宿題としてお願いしたいことがあります。

今年は暑いですね、なぜ暑いのでしょうか。考えたことはありますか。異常気象とよく言われています。今年は西日本で豪雨がありました。それから記録づくめの猛暑もありました。進路が逆を向いていった台風もありましたね。本当に最近は異常気象が多いです。

この異常気象というのは、なぜ起きるのだろう。これは研究が進んでおりますけれども、ぜひ皆さんにも考えてもらいたいと思います。なぜ異常気象がこんなに多いのか。

それともう一つ、こういう自然災害のときは、どの様な防災が有効なのか。そういうことも、ぜひ環境問題と一緒に考えてみてください。

3番目は、「Enjoy Computer!! Enjoy School life グループ」の皆さんでした。

これは学校ICTの活用についてでした。

「練馬区のICTは遅れている」と言われてしまいました。残念ながら本当です。23区の中でも、皆さんが授業で使うパソコン関係の整備は確かに遅れています。

今年は6校の学校でモデル事業をやっています。モデル校には私も何回か行っていますけれども、授業のあり方、やり方が大きく変わってきています。

そこには、皆さんの意欲や、先生のコンピュータを使いこなす力の向上などは当然必要なのですが、我々、教育委員会の立場からすると、できるだけ早く全校で、皆さんにICT教育が普通にできるように環境整備を進めていきたいと思っています。そのことをお約束したいと思います。

それからICT教育を使う際に大事な点もご指摘いただきました。それはリスク、危険性の問題です。

機器の故障やセキュリティーポリシーの問題など、さまざまあります。

我々も機器の整備には万全の対応でやっていきますけれども、皆さんが使う側も、しっかりとリスクについては考えていただきたいと思います。

ほかにも皆さん方が日常的に使うスマートフォンや携帯、あるいはゲームなどもしっかり認識した上で使うことは、極めて重要です。

ICT教育は練馬区で、しっかりと環境整備していきますので、後は皆さんがどのように使ってくれるか、先生方にもどうやって授業に生かしてもらうか、このことをぜひお願いしたいと思います。

それから、最後のグループですけれども、「中高生 どんどん行こうよ 児童館～児童館の利用率ハンパない～グループ」。

皆さん、児童館には行ったことはあるけれども、もっと楽しく利用できるようにするにはどうすれば良いのかという思いで、このテーマを選んでくださったのだらうと思います。

児童館の先生たちも中高生のための事業を、いろいろと考えて行っています。それは児童館に行ってくださいとわかると思います。しかし、まだ多くの中高生の皆さんが来てい

る状況ではないのかもしれませんが。

中高生の皆さんが楽しく利用できるようにするために、スポーツ大会の開催やボランティアの募集をするという具体的な提言もいただきました。

それらの提言はしっかりと受けとめて、できるかどうか検討していきたいと思います。

児童館は、そういう意味では小さい子どもから、中学生、高校生まで、いろいろな人たちが集まる場所になりつつあります。

今、練馬区では児童館は、とりわけ小さい子どもとお母さん方が気軽に子育ての悩みや子育てのことについて聞ける場所でもあり、また中高生の皆さんが気軽に立ち寄って、放課後を楽しく過ごす場所にもしたいということで、そういう取り組みを今後も行っています。

その中で、皆さんが、とりわけ中高生の児童館の活用、利用をもっと広めたいとおっしゃっていただいたことは、とてもうれしく思います。そのことに、私たちは応えなければならないと思いました。

児童館では、外で遊んでいて暑かったら児童館に来れば涼しい環境で過ごせるよという、キャンペーンをやっていて、中高生の皆さんにも来てくださっていると聞きました。

このように、いろいろな工夫をしながら、皆さんに来てもらえるように努力していますので、ぜひ児童館に遊びに来ていただきたいなと思います。

さて、以上、四つのグループの皆さん方に、簡単ですけれども、お話をさせていただきました。



この子ども議会ですけれども、今年から少しやり方を変えました。

今までは、政策提言を考えて、それを発表するだけの場だったのですが、そうではなくて、発表に対して質問があったり、それに対して答えたりするやりとりをぜひ、いろいろな方に見ていただく。そういう場にしたいなということで、今回少し変えてみました。

皆さんはどうでしたか。

私は見させていただいて、質問する側も、答えてくれる側も、礼儀をきちんとわきまえていて、すごくよかったと思っています。

これからの中学校の授業は、先生が板書して、生徒がノートに写しながら話を聞くという形ではなく、1つの問題に対して一人ひとりがいろいろな視点から考え、グループで話し合い、課題や解決策をみつけていくような形になっていくと思います。

この形こそ、新しい教育の姿だろうと思っています。皆さんは、今回、そういうことを実際に経験し、見事にやり遂げました。そのことに改めて敬意を表して、私の講評とさせていただきます。

最後になりますけれども、今日は議長として一生懸命皆さんの議事をさばいてくれた、南が丘中学校の小林篤生君、大変立派だったと思います。皆さんで拍手をしてあげてください。

(拍手)

議長：これもちまして、平成30年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、練馬区役所の職員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力ありがとうございました。

(拍手)

平成三十年度 練馬子ども議会の会議録作成にあたり、地方自治法第二百一十三条第2項の規定を準用し、署名する

練馬子ども議会議長

小林 篤生

練馬子ども議会議員

田中 けまり

練馬子ども議会議員

谷内 晴

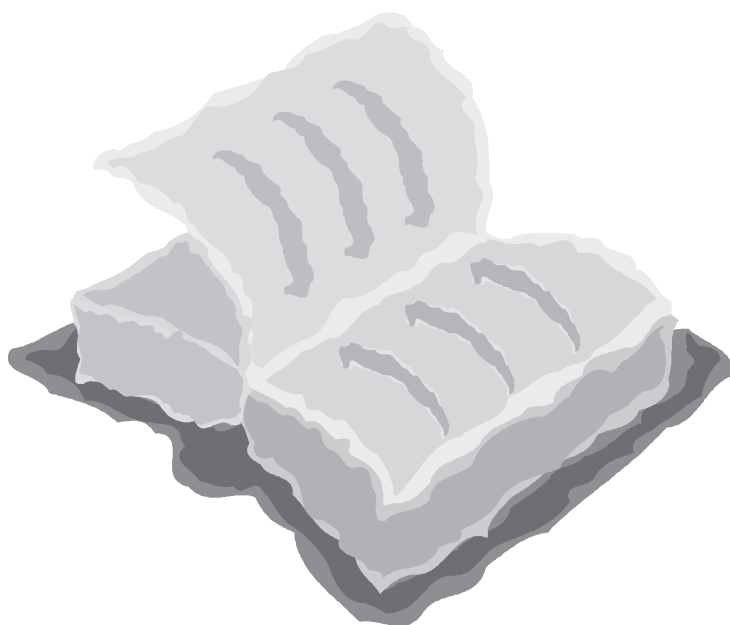
練馬子ども議会議員

荒井 千尋

練馬子ども議会議員

酒井 紗香

資料



グループ	テーマ	報告書 記載 ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
F i n d T h e L i g h t	練馬の観光・魅力をPRする取り組みについて	P32 ～36	バリアフリーの意識を広めるために、高齢者や障害者の目線に立って観光を体験する会を開いてはどうか。	練馬区福祉のまちづくり推進条例（平成22年3月に制定）に基づき、大規模な区立施設を新設や改築する時には、福祉のまちづくりサポーターの方からご意見を伺い、高齢者や障害者の目線に立ったバリアフリー整備を区民参加で行っています。 また、平成29年度から、全ての人が楽しみながらUD（ユニバーサルデザイン）を知り、体験することができるイベントとして、「みんなのUDパーク」を開催しています。 ※ ユニバーサルデザイン（UD）…全ての人が使いやすいようにデザインする考え方。
			観光に訪れた外国人のために自動翻訳機や多言語化したパンフレットを設置してはどうか。	「観光ガイドマップ」やアニメ紹介冊子「アニメ・イチバンのまち練馬区」、観光情報サイト「とおておきの練馬」は、すでに多言語化して対応しています。 また、観光案内所では、東京都と連携して翻訳サービスを実施しています。自動翻訳機の導入については、今後、費用対効果を考えて対応していきます。
			練馬区の魅力をさらに知ってもらうために、「とおておきの練馬」などのHPに写真をアップして、パンフレットやインスタ映えする場所を宣伝してはどうか。	観光情報サイト「とおておきの練馬」の中に「とおておきの練馬写真館」を設け、広く区内外から写真（コメント付）の投稿を募っています。サイト開設（平成29年4月）から1年半が経過し、サイトへのアクセス数が順調に増加し、数多い投稿もいただけるようになりました。「とおておきの練馬」の案内を始めました。
			シェアサイクルの利用者を増やすために、設置場所ごとの自転車台数を減らして、ほかの地域に設置場所を増やしてはどうか。	現在、シェアサイクル事業については、コンパクトに都市機能が集積された住宅地である光が丘地区と、公園等のみどりや文化施設などがあるの大泉・石神井・上石神井地区で導入効果を検証するため社会実験を行っています。2つの地区の内での利用者を増やすため、サイクルポートの位置の変更等について検討しています。
			練馬の重要な観光資源であるアニメを活かすには、区内にあるアニメの聖地に人をたくさん呼ぶことである。そのために、アニメの聖地を自分たちで探すツアーを実施したり、練馬をモデル地としたアニメの作成を促してはどうか。	これまでも練馬区は、アニメを活かす取り組みとして、アニメ聖地ツアーを行ってきました。今後も、アニメスタジオやアニメ作品の舞台となった場所、東映アニメミュージアムなどを活用した、より特色のあるツアーを企画していきます。 また、自分でツアーを実施する人たちのために、練馬に実在する場所をモデルとしたアニメ作品「四月は君の嘘」のロケーションMA Pを再発行しました。MA Pに紹介されている地点では、スマートフォンアプリ『舞台めぐり』を使用して、キャラクターと一緒にAR（拡張現実）撮影ができます。 ※ AR（拡張現実）撮影…カメラなどで撮影した映像に合わせた情報を重ねて表示する手法。

グループ	テーマ	報告書 記載 ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
広まれ2RくremeRBlueくグループ	ごみになるものを減らす取り組みについて	P36 ～40	正しいごみの分別を定着させるために、パンフレットなどの分別方法の記載について表に示すなど、より分かりやすくしてはどうか。また、区民参加型のイベントなどを行ってはどうか。	分別方法等については、冊子「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」や区報、区ホームページ等により周知しています。 効果的に周知を行うため、記載方法等については、検証を行っていきます。 清掃事務所では、主に小学校4年生を対象とする環境学習を実施しており、プログラムの一つとして分別体験を取り込んでいます。また、各種イベント等においては、分別クイズを実施しています。引き続き、区民参加型事業の充実に向け、検討していきます。
			食品ロスを減らすために、必要な食材のみを購入することを呼びかけ、それによるメリットを区民に伝えてはどうか。	区では、ごみの発生抑制のため、食品ロス削減を重点取組としています。区報、区ホームページでの周知、その他ねりまエコスタイルフェアなどの各種イベントでのパネル展示を通じ、周知活動を行っています。引き続き、食品ロス削減に向け、効果的な情報提供に努めていきます。
			紙類やインクの使用を抑えるために、個人情報情報を含まない配布物のネット掲示や必要な人のみに配付してはどうか。また、印刷紙の大きさを小さくしたり、材質を環境に配慮したものに変更してはどうか。	区では、環境関係法令に則り、環境への負荷を低減する取り組みを行っています。 事業周知等に使用する用紙枚数の精査やペーパーレス化は省資源の推進となります。 省資源の推進に取り組みねりまエコプランの周知等を通じて、引き続き、環境に配慮した事務の推進に努めていきます。

グループ	テーマ	報告書 記載 ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
E n j o y S o c o o l p l u t e r !! グ ル プ	I C T の 利 用 状 況 と そ の 効 果 に つ い て	P40 ～43	I C T 機 器 を 効 果 的 に 利 用 す る た め に、 時 間 割 や 利 用 時 間 を 調 整 し て 利 用 時 間 が 重 複 す る こ と が な い よ う に し て は ど う か。	教 育 委 員 会 事 務 局 や 学 校、 教 職 員 間 で 利 用 し て い る 校 務 支 援 シ ス テ ム を 活 用 し て、 I C T 機 器 を 効 果 的 ・ 効 率 的 に 活 用 で き る 体 制 づ く り を し て い き ま す。
			I C T 技 術 に 対 す る 先 生 や 生 徒 の 個 人 差 の 解 消 や 意 識 向 上 の た め、 研 修 会 や 学 習 会 を 開 催 し た り、 ポ ス タ ー を 作 成 し て は ど う か。	I C T を 活 用 し た 事 例 や、 授 業 で 活 用 で き る デ ジ タ ル 教 材 な ど を 検 索 で き る 仕 組 み を 作 り、 授 業 を 研 究 す る 教 員 を 支 援 し て い き ま す。 ま た、 I C T に 不 慣 れ で あ っ て も 使 い 方 を 習 得 で き る 研 修 を 充 実 し て い き ま す。
			教 師 の 負 担 を 軽 減 し た り、 授 業 中 に 起 こ る ト ラ ブ ル を 減 ら す た め に、 I C T 専 門 家 と の 相 談 体 制 を 充 実 さ せ て は ど う か。	I C T 機 器 に ま つ わ る ト ラ ブ ル や I C T 機 器 の 使 い 方 な ど、 学 校 で の 困 り ご と に 対 処 す る た め の 支 援 ス タ ッ プ と し て、 学 校 ヘ ル プ デ ス ク や I C T 支 援 員 を 配 置 し て い ま す。 今 後、 I C T を 活 用 し た 授 業 を 進 め る に あ た り、 支 援 ス タ ッ プ の 要 請 も 増 え る こ と か ら、 ヘ ル プ デ ス ク ・ I C T 支 援 員 ・ 事 務 局 が さ ら に 連 携 体 制 を 整 え、 迅 速 か つ 効 果 的 な 学 校 支 援 の 充 実 を 図 っ て い き ま す。

グループ	テーマ	報告書 記載 ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
中高生の児童館の利用率を上げるための取り組みについて			中学生にPRするために、各中学校に配布している中高生事業のプリントをカラーにしてはどうか。また、情報発信の際には、ホームページでの掲載場所を工夫したり、中高生の利用頻度が高いSNSにホームページのURLを貼ってはどうか。	各児童館ごとにカラーのチラシやホームページを作成して、事業を紹介しています。また、各館で体験できるスポーツやバンド設備の一覧表を作成し、ホームページに掲載しています。今後、フェイスブックやツイッター等の積極的な活用も検討していきます。
中高生が参加しなくなるイベントを増やすために、中高生を対象としたスポーツ大会の開催やボランティア募集をしてはどうか。		p44 ～48	中高生向けの設備を整え利用率を上げるために、Wi-Fiの設置や学習スペースを設けてはどうか。	各児童館ごとに中高生タイムを設け、図書室や図工室を自習室として開放しています。今後、中高生のみならず、多くの来館者が利用しやすくなるよう、施設改築等に合わせ個別学習ブースやWi-Fiの設置について検討していきます。 ※ 中高生タイム…中高生が利用しやすくなるために、利用時間の延長や優先利用できる時間帯を設けている。
			中高生が参加しなくなるイベントを増やすために、中高生を対象としたスポーツ大会の開催やボランティア募集をしてはどうか。	現在、バスケットボール、卓球、ダンス等のスポーツ活動や、クッキング行事等のイベントを各児童館ごとに開催しています。また、多くの児童館で館行事や夏まつり等のボランティアを募集しています。今後は、中高生の自己実現の場として、中高生が自主的に企画、運営するイベントも実施していきます。

子ども議員へのアンケート集計結果

配付35 回収35

※各欄の％は回収数に対する割合とする

【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次のうちから一つだけ選んでください。

先生にすすめられて(学校の推薦)	23	68%
面白そうだったから	5	15%
練馬区に興味・関心があったから	1	3%
以前、参加したがまたやってみたいと思ったから	0	0%
自分の意見を発言したいと思ったから	1	3%
その他	4	12%
計	34	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・生徒会内での立候補。
- ・昨年度の参加者の話を聞いて、自分も参加してみたいと思ったから。

【オリエンテーションについて】第1回学習会(7月7日)

(問2-1) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	14	41%
良かった	15	44%
どちらでもない	4	12%
あまり良くなかった	1	3%
良くなかった	0	0%
計	34	100%

(問2-2) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	9	12%
良い経験となった	26	34%
他校の生徒と交流できた	24	31%
区のことをわかった	15	19%
わかりやすかった	3	4%
その他	0	0%
計	77	100%

〔「その他」の自由記入欄〕なし

(問2-3) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	8	38%
他校の生徒との交流がなかった	1	5%
全体的にわからなかった	0	0%
区政・区議会制度のことがよくわからなかった	1	5%
選挙制度のことがよくわからなかった	1	5%
政策提言のことがよくわからなかった	0	0%
時間が足りなかった	7	33%
その他	3	14%
計	21	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・会場が初めて行く場所なので、わかりづらかった。
- ・夏休みの宿題ができなかった。
- ・昨年度の様子が分かるようなものを事前に配布してもらいたい。

(問2-4) その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・選挙体験が面白かった。
- ・もっとにぎやかにした方がよい。
- ・投票箱の組み立てなど、なかなか経験できないことをすることができ、とても良かった。
- ・グループ内で仲良くなれる活動があれば、意見も活発に出て良かったと思う。

【地域調査について】第2回学習会（7月21日）

（問3-1）参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	19	58%
良かった	12	36%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	2	6%
良くなかった	0	0%
計	33	100%

（問3-2）良かった点は何ですか。（複数回答あり）

充実していた	20	31%
良い経験となった	23	35%
政策提言発表の参考になった	20	31%
その他	2	3%
計	65	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・新しく知ったことがたくさんあった。

（問3-3）良くなかった点は何ですか（複数回答あり）

調査の時間が少なかった	11	58%
政策提言発表の参考にならなかった	0	0%
別の場所を調査したかった	3	16%
その他	5	26%
計	19	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・集合場所がわかりにくい。
- ・車の移動がなかった。
- ・地域調査の範囲を区外に広めてほしい。

（問3-4）その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・部活の大会などで日程調整できなかった。
- ・外が暑く、体調が悪くなった。
- ・もう少し時間に余裕がほしかった。

【政策提言作成（グループ討議）について】第3回学習会（7月23日）

（問4-1）参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	19	56%
良かった	13	38%
どちらでもない	1	3%
あまり良くなかった	1	3%
良くなかった	0	0%
計	34	100%

（問4-2）良かった点は何ですか。（複数回答あり）

自分の意見を発言できた	23	18%
他の人の意見を聞いた	28	22%
みんなで協力できた	22	17%
十分に検討できた	20	16%
グループでうまく意見をまとめることができた	22	17%
区の現状を知ることができた	13	10%
その他	0	0%
計	128	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・他人の考え方を深く理解できた。

(問４－３) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できなかった	1	7%
他の人の意見を聴けなかった	1	7%
みんなで協力できなかった	1	7%
話し合いの時間が足りなかった	5	36%
意見がうまくまとまらなかった	5	36%
区のことを知ることができなかった	0	0%
その他	1	7%
計	14	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・ 1つの紙にまとめていくのが良いと思った。

(問４－４) その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・ 部活や勉強で行けなかった。
- ・ 仲が深まった。付箋は班で使うことにした方が良いと思う。たくさん余ってしまった。
- ・ 付箋の利用については、剥がれやすいため効率が悪いのではないかな。

【子ども議会開会宣言、意見交換会、第四回学習会】(7月31日)

(問５－１) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	24	69%
良かった	9	26%
どちらでもない	2	6%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	35	100%

(問５－２) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	21	20%
区の現状、考えが理解できた	20	19%
良い経験となった	26	25%
他のグループの考えを知ることができた	17	16%
意見交換の結果を、提言に反映できた	18	17%
その他	2	2%
計	104	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・ 楽しかった。

(問５－３) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	4	24%
区の現状、考えが理解できなかった	1	6%
他のグループの考えを知ることができなかった	5	29%
意見交換の結果を、提言に反映できなかった	1	6%
その他	6	35%
計	17	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・ 特定の人ばかり発言していた。
- ・ 休憩時間が長い。
- ・ 時間が足りなかった。
- ・ 時間配分がうまくできなかった。

(問５－４) その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・ 話の内容がずれて進んでいた時は、職員に注意してもらいたい。
- ・ 朝の集合が早く、解散も遅かったので疲れた。休憩時間など無駄な時間が多い。
- ・ 座席や発言方法が明確にされており、どのグループの誰が発言しているのか分かりやすかった。
- ・ なぜ開会宣言だけ議場でやるのか良く分からなかった。

【政策提言発表について】（８月７日）

（問６－１）参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	20	57%
良かった	13	37%
どちらでもない	2	6%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	35	100%

（問６－２）良かった点は何ですか。（複数回答あり）

自分の意見がうまく発表できた	25	24%
区長から講評をもらえた	14	14%
良い経験となった	31	30%
実際の議場でできた	17	17%
議員の役割を理解できた	14	14%
その他	2	2%
計	103	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・楽しかった。

（問６－３）良くなかった点は何ですか。（複数回答あり）

形式的だった	14	67%
うまく発表できなかった	0	0%
時間がなかった	1	5%
区の現状、考えが聞けなかった	2	10%
その他	4	19%
計	21	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・改善点を具体的に知りたかった。
- ・休憩時間が長い。
- ・上手に発言できなかった。

（問６－４）その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・固定な感じがした。
- ・議員と話をする場がほしかった。
- ・台本どおりに進めていたので、もう少し自由な感じでも良いと思った。

【練馬子ども議会を振り返って】

（問７）子ども議会の期間（５日間）について、どのように感じましたか？

長い	4	12%
少し長い	5	15%
丁度良い	15	44%
少し短い	7	21%
短い	3	9%
計	34	100%

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・６月の個別学習から第１回学習会までの期間が長く感じられたから。
- ・暇な時間が多かった。早い時間から始めなくて良いと思うから。
- ・余っている時間があったから。
- ・作業が早く終わったら次に進むなど、進度をグループごとに設定してほしいから。
- ・５日間は長くないが、１日の時間が長い。
- ・休憩時間が長すぎたから。

「丁度良い」を選んだ理由

- ・間を空けて実施していたので、その間に考える時間ができたから。
- ・日数としてはあまり多くなかったが、１回の時間が充分にあったから。
- ・準備する期間としては丁度良かった。
- ・しっかり時間内に終わることができたから。
- ・短い期間だからか、集中して取り組むことができたから。
- ・区の現状を話し合い、実態を調査し、課題や対策をまとめるには十分な期間だったと思うから

- ・政策提言のとき良い発表ができたから。
- ・調整が楽だったから。

「少し短い」「短い」を選んだ理由

- ・他校の生徒との交流が楽しく、すごく充実していた。もっとやりたかったから。
- ・もう少し日数があれば、内容の深い発表になったと思うから。
- ・政策提言まで少し余裕がなかったから。
- ・もっと調べるべき箇所があったと思うから。
- ・皆と仲良くなったので、もう少し話したかったから。
- ・もう少し提言についての話し合いや意見交換をしたかったから。
- ・色々な所で地域調査を行い、政策提言をより詳しいものにしたかったから。

(問 8) 全体を通して練馬子ども議会は皆さんの政策提言を十分に表明する場となりましたか？

そう思う	20	57%
まあそう思う	14	40%
あまりそう思わない	1	3%
そう思わない	0	0%
わからない	0	0%
計	35	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・自分達の考えを伝える良い場となったから。
- ・全員が十分に意見表明できたと思ったから。
- ・大人の考えではなく、子供の視点で意見を出すことができたから。
- ・一人ひとりが様々な視点から意見を出し合い、共有・検討ができたから。
- ・区の現状について知ることができたから。
- ・様々な人からの意見を聞けることができたから。
- ・とてもわかりやすく発表していたから。
- ・自分達の意見を伝えることができ、きちんと発表できたから。
- ・十二分に時間を使えたと感じたが、質問が形式的なものになってしまったのは残念だった。
- ・全員の意見をまとめて発表できたから。
- ・とても勉強することができたから。
- ・発表の場が2度あり、自分やグループの意見発表に十分にできたから。
- ・意見交換会で他グループの考えが理解できたことで、政策提言が分かりやすかったから。
- ・全員に発言する機会があったから。
- ・どのグループも沢山の人の前で、自分の発表ができたから。

「あまり、そう思わない」「そう思わない」を選んだ理由

- ・自分の考えは任せっぱなしだったため、十分ではなかった。

(問 9) 今後子ども議員の経験を生かせる（または、生かしたい）と思いますか。

そう思う	26	74%
まあそう思う	6	17%
あまりそう思わない	1	3%
そう思わない	0	0%
わからない	2	6%
計	35	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・進学しても社会に出ても、問題解決のために生かせると思うから。
- ・発表するときの態度、積極的に初対面の人と話すこと、考えをまとめることができたから。
- ・区の現状を考えることや、自分の意見を相手に伝えることができたから。
- ・学校での発表や、友達や生徒との意見の交わり方を学べたので生かせると思うから。
- ・積極的に意見を言えるようになったと思うから。
- ・本番までの準備期間の計画に役立ちそうだった。
- ・学校でのグループ活動に生かせると思うから。
- ・今後自立していく中で今回の経験はとても重要になると思うから。
- ・意見に相違があっても協力してまとめることができたから。
- ・知らない人と話す、という点では良い経験になったと思うから。
- ・短い期間の中で積極的な意見交換ができ、自主性や協調性が養われたと思うから。

- ・グループの人と仲良く協力して、話し合いができたから。

「あまり、そう思わない」「そう思わない」を選んだ理由

- ・なし

(問10) 子ども議会についての自由意見

- ・大人が行っているものを中学生がやるのは社会を知るうえでとても良いと思う。
- ・すごく良い経験になったので、これからも続けていってほしい。
- ・周りの協力でスムーズに進めることができた。
- ・自分から意見を発信して進めることの大切さを学んだ。
- ・今回の経験を他の人にも伝えたいと思う。
- ・とても良いが、やる前にどんなことをするのか分かりづらかった。
- ・子ども議会に参加できて良かった。
- ・自分達で調べてまとめ、それを大きな場で発表する良い経験となった。
- ・グループ内では活発な意見交換ができて良かった。良い経験になった。
- ・区について深く考え、発表できるという場はとても良いと思った。
- ・他校の人と交流ができ、良かった。
- ・練馬区を知ることができる貴重な体験だった。
- ・普段とは異なる体験をすることで、自分の成長につながったと感じる。
- ・自分の意見を発言することが、上手にできるようになった。
- ・後輩達にも同じような経験をしてほしい。
- ・政策提言が実際にどこで活用されているのか知りたい。
- ・区の現状については、引き続き調べてみたいと思う。

練馬子ども議会実行委員会プロジェクトチーム（P T）について

1 設置目的

練馬子ども議会学習会で政策提言発表内容等について子ども議員が上手く議論できるよう、青少年課職員とともに進行管理や助言をするために、政策提言発表テーマに関する所管部から5名の職員を選出し、P Tを設置した。

P Tは各部庶務担当課長で構成する「練馬子ども議会実行委員会」（こども家庭部長が委員長）の下部組織にあたる。

2 プロジェクトチームの担当内容

- ① 学習会のグループ学習の際、各グループに入り、青少年課職員とともにタイムスケジュールに沿った学習会の進行管理をする。
- ② グループの扱うテーマに関する専門的な知識についての質問に対する回答や、情報の調べ方についての助言をする。
- ③ 意見が上手くまとまらず進行が滞った時は、腹案を提示するなどしてグループの意見をまとめる。
- ④ 子ども議員の提言内容がグループの扱うテーマから外れたものである場合には、グループの扱うテーマとなるよう示唆する。

3 プロジェクトチームメンバー

<区政全般に関する分野>

商工観光課 観光・アニメ係 主査	古 山 等
清掃リサイクル課 清掃企画担当係 技能長	富 澤 崇 行
清掃リサイクル課 清掃事業係 主査	村 上 悟 視

<教育・こども分野>

教育施策課 教育施策担当係	染 野 航 平
子育て支援課 子ども育成係 主査	渡 辺 雅 昭

練馬子ども議会報告書

平成 30 年（2018 年）12 月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-5984-1292（直通）

Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp

ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>
